

2015年3月期決算

# 決算説明会

株式会社 **トクヤマ**

2015年4月30日



# CONTENTS

- 1 2015年3月期 決算
- 2 2016年3月期 業績予想
- 3 新経営方針
- 4 事業戦略
- 5 補足資料

# 1 2015年3月期 決算

1. 決算概要
2. セグメント別売上高  
／営業利益
3. 営業利益増減分析

## 1. 決算概要

## 連 結 ( 前 期 比 )

(億円未満切捨て)  
(億円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	増 減	
			金額	%
売上高	2,873	3,020	+147	+5
営業利益	202	195	△7	△4
経常利益	149	129	△20	△14
当期純損益	102	△653	△755	-
1株当たり当期純損益(円)	29.37	△187.85		
為替(円/\$)	100	110		
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	67,300	63,500		

## 定性情報(前期比)

(売上高) 3,020億円(5%増)

増収要因 : 多結晶シリコン・電子工業用高純度薬品・医薬品原薬などの販売数量増、  
苛性ソーダの販売価格是正、  
新たに加わった連結子会社の営業開始による増収

(営業利益) 195億円(4%減)

増益要因 : 石油化学製品の損益改善

減益要因 : トクヤママレーシアの減価償却費増

## 1. 決算概要

## 連 結 ( 前 期 比 )

(億円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	増 減	
			金額	%
売上高	2,873	3,020	+147	+5
営業利益	202	195	△7	△4
経常利益	149	129	△20	△14
当期純損益	102	△653	△755	-
1株当たり当期純損益(円)	29.37	△187.85		
為替(円/\$)	100	110		
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	67,300	63,500		

## 定性情報(前期比)

(経常利益) 129億円(14%減)

増益要因 : 休止部門費の減少

減益要因 : 支払利息の増加、トクヤママレーシアでの試作費用計上

(当期純損益) △653億円(赤字転落)

増益要因 : 投資有価証券売却益の増加

減益要因 : トクヤママレーシアの多結晶シリコン製造設備の減損損失計上

# 1. 決算概要

## 連 結（前 期 末 比）

（億円）

	2014年 3月末	2015年 3月末	増 減
総資産	5,763	5,545	△217
自己資本	2,296	1,625	△670
自己資本比率	39.9%	29.3%	△10.5ポイント
有利子負債	2,407	2,831	+424
D/Eレシオ	1.05	1.74	+0.69
ネットD/Eレシオ*	0.74	1.03	+0.29
1株当たり純資産(円)	660.18	467.36	

### 定性情報(前期末比)

\*ネットD/Eレシオ: (有利子負債－現預金・現金同等物・金銭信託) / 自己資本

(総資産)

減少項目: トクヤママレーシアの多結晶シリコン製造設備の減損損失計上による有形固定資産の減少

(自己資本)

減少項目: 減損損失計上に伴う利益剰余金の減少

(有利子負債)

増加項目: 長期借入金の増加

# 1. 決算概要

連結 (2014年9月末比)

(億円)

	2014年 9月末	2015年 3月末	増 減
総資産	5,526	5,545	+18
自己資本	1,483	1,625	+142
自己資本比率	26.8%	29.3%	+2.5ポイント
有利子負債	2,951	2,831	△119
D/Eレシオ	1.99	1.74	△0.25
ネットD/Eレシオ*	1.25	1.03	△0.22
1株当たり純資産(円)	426.31	467.36	

## 定性情報(2014年9月末比)

(自己資本)

増加項目: 事業利益の計上、投資有価証券売却益(104億円)等による利益剰余金の増加  
(有利子負債)

減少項目: 借入金の減少

\*ネットD/Eレシオ: (有利子負債－現預金・現金同等物・金銭信託) / 自己資本

## 2. セグメント別売上高／営業利益 (前期比)

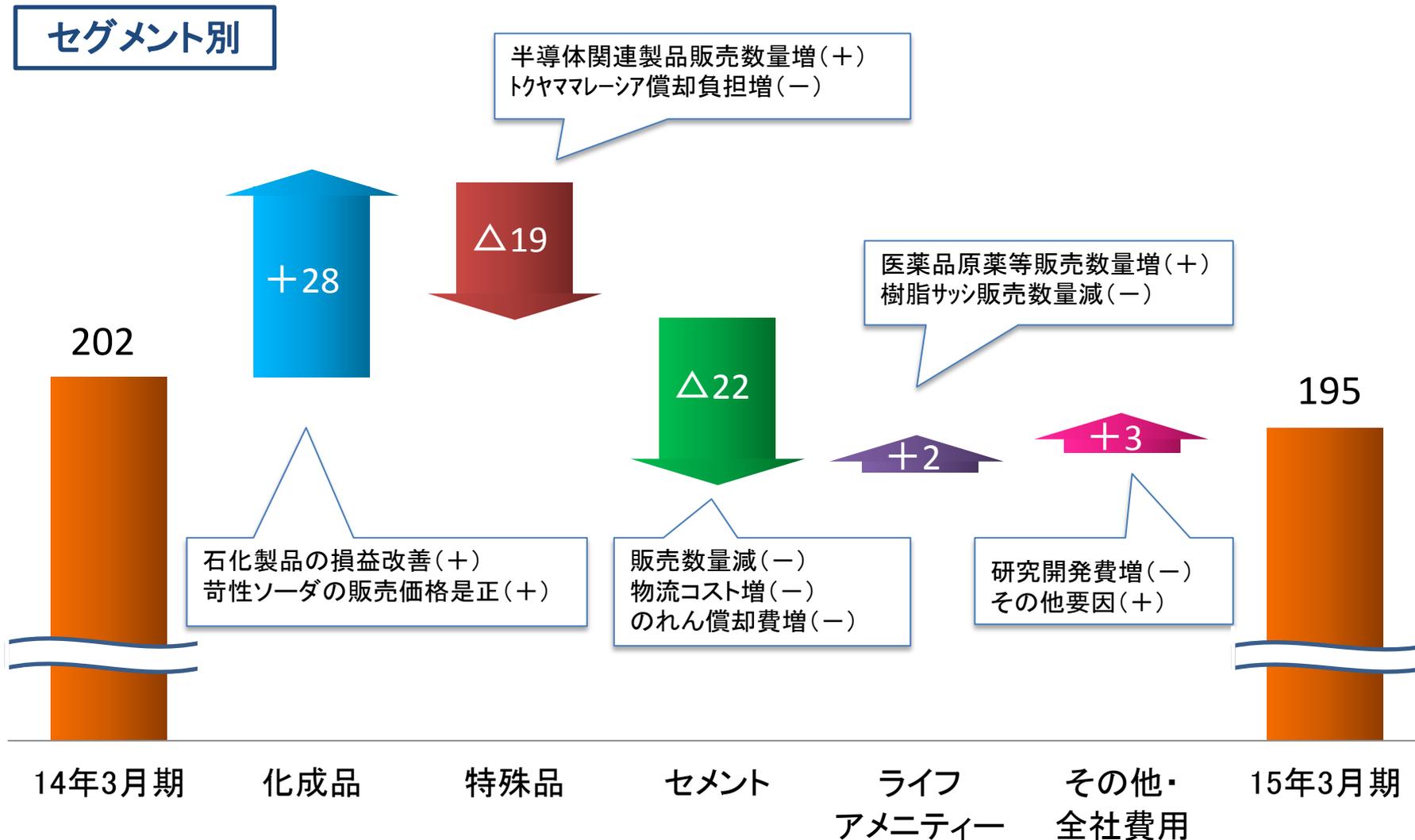
(億円)

	2014年3月期		2015年3月期		増減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	864	22	919	50	+54	+6	+28	+126
特殊品	524	60	554	41	+29	+6	△19	△32
セメント	789	66	812	44	+22	+3	△22	△33
ライフアメニティー	570	48	584	51	+13	+2	+2	+6
その他	472	41	514	60	+41	+9	+18	+45
計	3,222	240	3,385	248	+162	+5	+7	+3
セグメント間消去・ 全社費用	△349	△37	△364	△52	△15	-	△15	-
連結決算	2,873	202	3,020	195	+147	+5	△7	△4

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

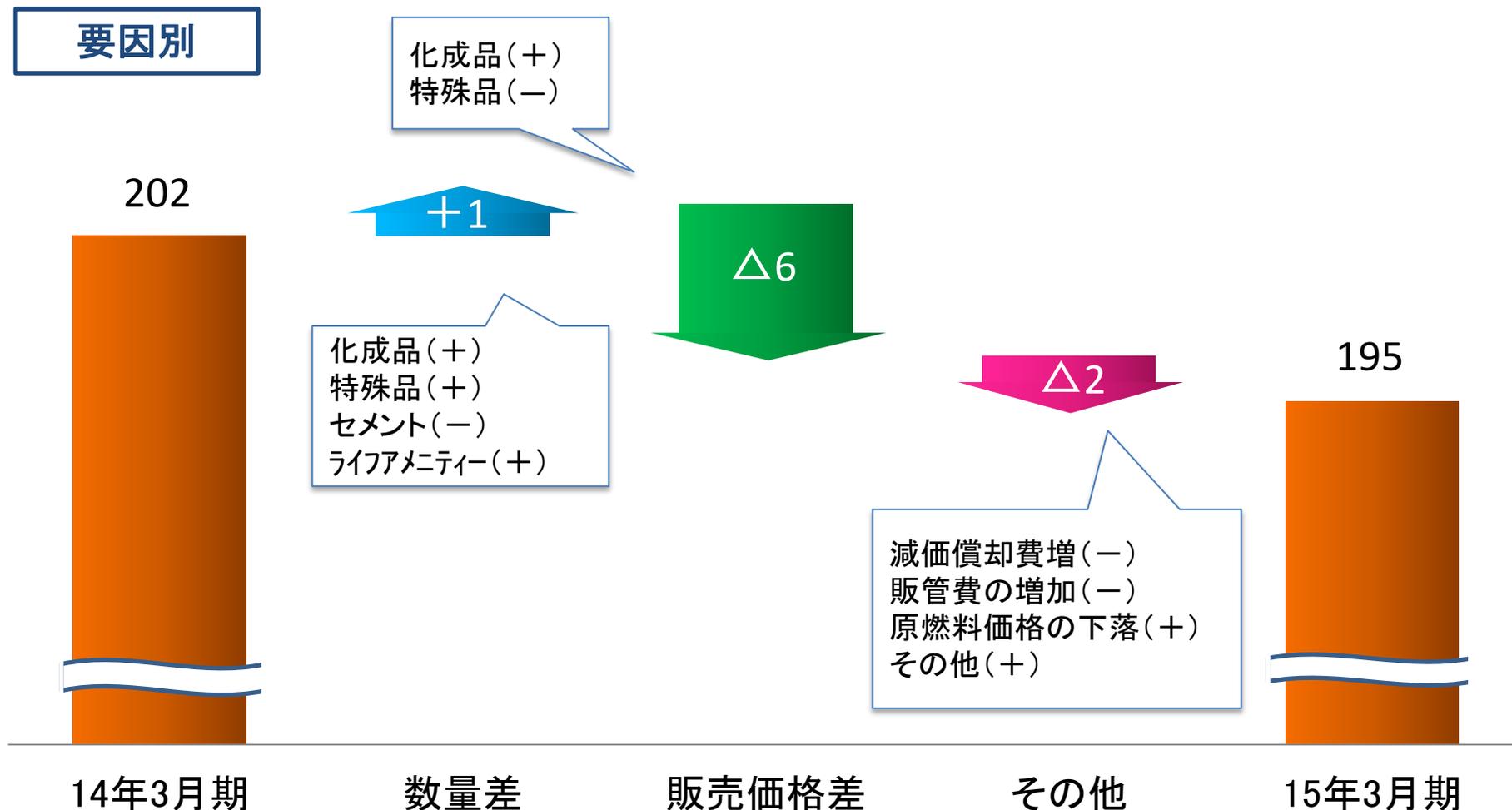
# 3. 営業利益増減分析

( 前 期 比 ) (億円)



# 3. 営業利益増減分析

( 前 期 比 ) (億円)



(注) 数量差 = (当期の販売数量 - 前年同期の販売数量) × (前年同期の販売単価 - 前年同期の変動費単価)  
 販売価格差 = (当期の販売単価 - 前年同期の販売単価) × 当期の販売数量  
 その他は変動費単価差及び固定費差など

## **② 2016年3月期 業績予想**

- 1. 今後の事業環境と取り組み**
- 2. 業績予想の前提**
- 3. 業績予想**
- 4. セグメント別業績予想**
- 5. 営業利益の増減**

# 1. 今後の事業環境と取り組み

## 化成品

- ◆原油、石炭など原燃料価格の急激な変動と販売価格への影響など、事業環境は依然不透明で楽観できない状況が続くと予想
  - ・事業構造の再構築、徹底したコスト削減より収益確保に努める

## 特殊品

- ◆半導体・太陽電池市場ともに需要は堅調な推移が見込まれるものの、多結晶シリコンは依然として供給過剰が解消せず厳しい事業環境が続くと予想
  - ・トクヤママレーシアで、太陽電池向け多結晶シリコンのフル生産体制の確立、徳山製造所では半導体向けの最適生産体制の確立と高品質化対応を急ぐ

## セメント

- ◆人手不足による工事の遅れ等の影響が長引き、国内需要はおおむね横ばいで推移すると予想
  - ・製品出荷設備や輸送能力の増強によるコスト増が見込まれるものの、経費等の徹底した削減により収益確保に努める

## ライフアメニティー

- ◆国内市場は景気回復の広がりや消費拡大が見込まれる一方、海外市場は特に新興国の景気下振れが懸念される
  - ・顧客のニーズに対応した新製品の開発に注力し、成長市場への拡販に取り組む

## 2. 業績予想の前提

	15年3月期 上期実績	15年3月期 下期実績	15年3月期 通期実績	16年3月期 通期予想
国産ナフサ価格 (円/kl)	70,400	56,500	63,500	46,000
為替 (円/\$)	103	117	110	115

### 3. 業績予想

#### 連結（予想の前期比）

(億円)

	2015年3月期 実績	2016年 3月期 予想
売上高	3,020	3,120
営業利益	195	210
経常利益	129	140
当期純利益	△653	80
1株当たり当期純利益(円)	△187.85	23.00
為替(円/\$)	110	115
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	63,500	46,000

増 減	
金額	%
+99	+3
+14	+8
+10	+8
+733	-

#### 定性情報(前期比)

##### (売上高)

増収要因: 多結晶シリコン、セメントの販売数量増

##### (経常利益)

増益要因: 営業利益の増加

##### (営業利益)

増益要因: 費用の削減

減益要因: トクヤママレーシアの減価償却費増

##### (当期純利益)

増益要因: 前期に計上した減損損失が当期は発生しないことによる特別損益の改善

## 4. セグメント別業績予想 (予想の前期比)

(億円)

	2015年3月期実績		2016年3月期予想		増減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	919	50	870	60	△49	△5	+9	+19
特殊品	554	41	660	10	+105	+19	△31	△76
セメント	812	44	860	70	+47	+6	+25	+57
ライフアメニティー	584	51	580	55	△4	△1	+3	+7
その他	514	60	560	40	+45	+9	△20	△34
計	3,385	248	3,530	235	+144	+4	△13	△5
セグメント間 消去・全社費用	△364	△52	△410	△25	△45	-	+27	-
連結決算	3,020	195	3,120	210	+99	+3	+14	+8

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

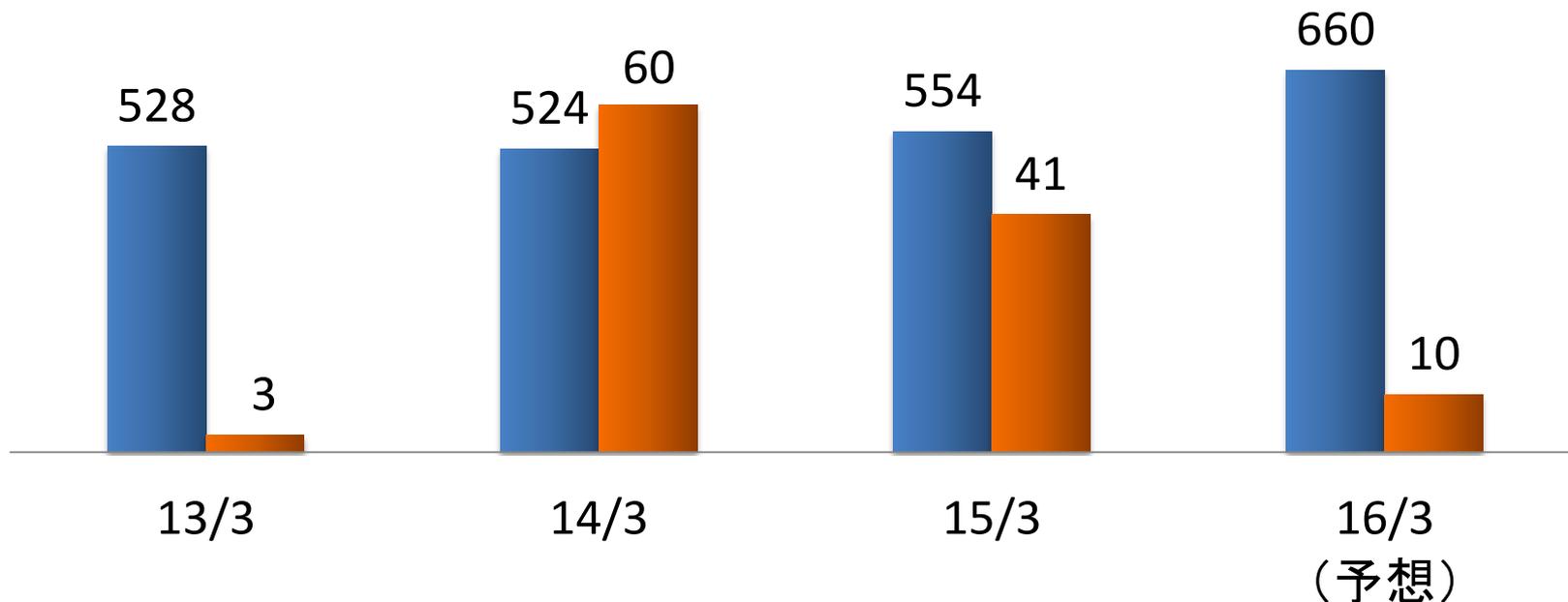
## 4. セグメント別業績予想

### 特殊品

(億円)

■ 売上高

■ 営業利益



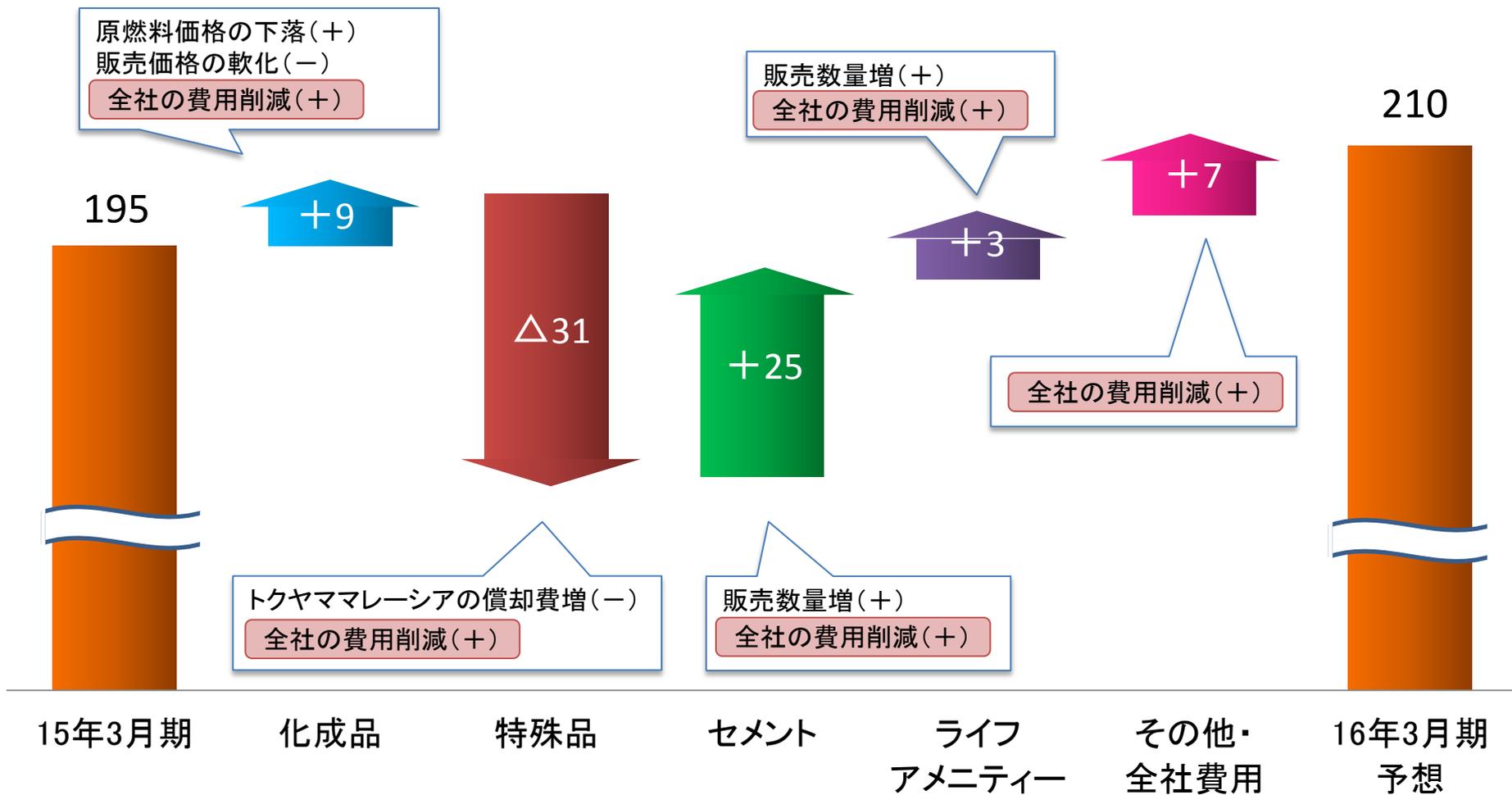
		15/3	16/3(予想)
トクヤマ単体	売上高	476	552
	営業利益	87	85
トクヤママレーシア単体	売上高	43	129
	営業利益	△43	△81

# 5. 営業利益の増減

( 予想の前期比 )

( 億円 )

## セグメント別

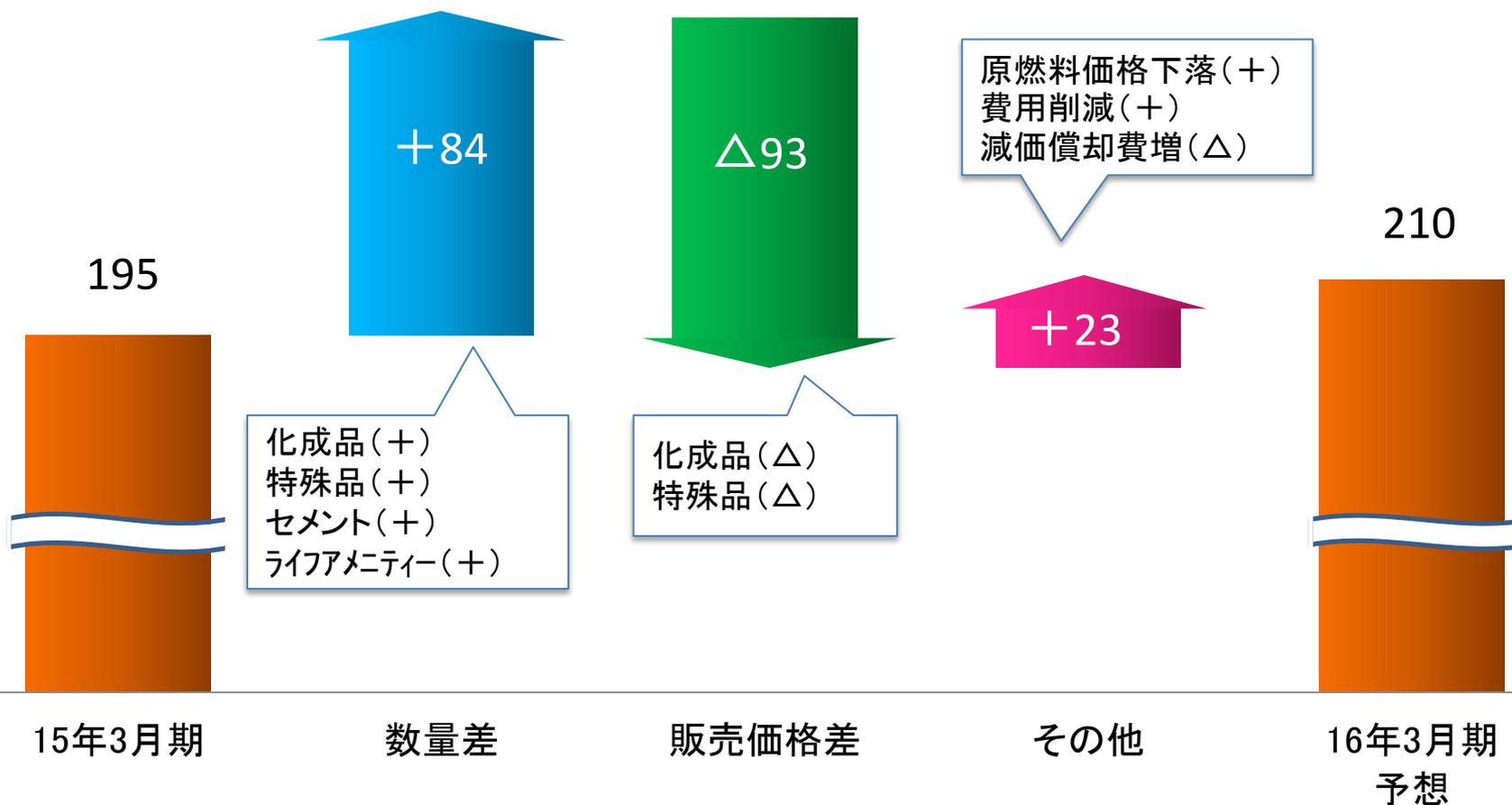


# 5. 営業利益の増減

( 予想の前期比 )

( 億円 )

要因別



(注) 数量差 = (当期の販売数量 - 前年同期の販売数量) × (前年同期の販売単価 - 前年同期の変動費単価)

販売価格差 = (当期の販売単価 - 前年同期の販売単価) × 当期の販売数量

その他は変動費単価差及び固定費差など

## **③ 新経営方針**

- 1. 現状認識と課題**
- 2. 経営方針**



# 1. 現状認識と課題

## 現状認識

- マレーシア第1期プラント(PS-1)の減損処理等により、857億円の特別損失を計上、15年3月末の自己資本は1625億円、自己資本比率は29%台まで減少。依然事業環境が厳しい太陽電池市場において、1300億円を投じたマレーシア第2期プラントの稼働が本格化していない状況に鑑みれば、財務状態は健全とは言えない
- 化成品、セメント、ライフアメニティーなどの既存事業は、これまでの合理化等の取り組みに加え、円安や需要回復などの追い風もあり、収益は堅調に推移

## 喫緊の経営課題

- 財務基盤の立て直し
- 多結晶シリコン事業再構築(マレーシア黒字化)
- 既存事業の更なる収益力強化

## 2. 経営方針 (1) 財務基盤の立て直し

### ① 財務戦略

#### 基本方針

- 当面は、自己資本回復、有利子負債の削減(返済原資となるフリーキャッシュ・フローの確保)、格付(BBB)の維持を最優先に取り組む

#### 施策

資産圧縮、  
現金化

- ・投資有価証券の売却
- ・遊休資産・不動産の売却、流動化
- ・非中核事業の見直し

キャッシュアウト  
抑制

- ・投資・修繕費の削減(償却の75%を目安とした厳選投資)
- ・支払利息の低減(有利子負債残高の削減)
- ・役員報酬カット、人件費カット
- ・東京本部・大阪支店の移転、規模縮小
- ・費用削減(経費、購買費、物流費)

キャッシュイン  
増大

- ・既存事業の収益力強化
- ・既存事業の周辺領域における新製品の開発、拡大

## 2. 経営方針 (1) 財務基盤の立て直し

### ② 全社の費用削減(収益改善計画)

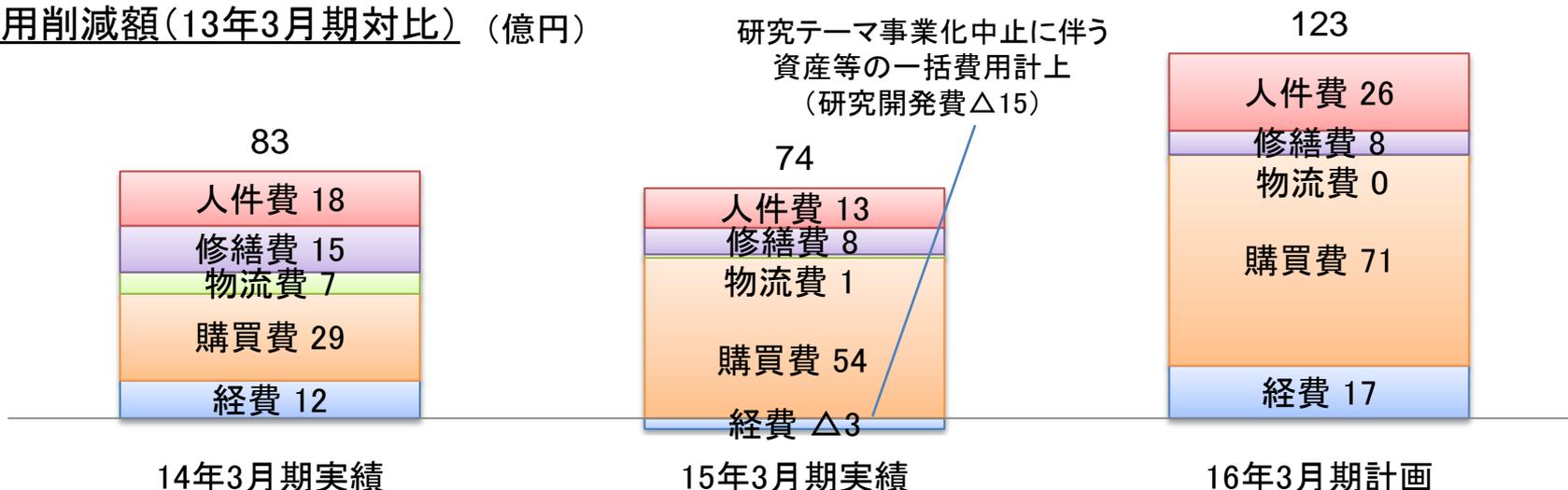
#### 2014年度までの実績

経費・購買費・人件費等の緊急的な削減、石炭等原燃料価格の下落により、14年3月期、15年3月期度ともに計画を上回る実績

#### 2015年度以降の取り組み

- ・人件費の緊急的削減
- ・修繕費、経費、購買費等の削減継続
- ・本社間接部門のスリム化
- ・生産性の向上、構造改革により、恒久的な費用削減を目指す

#### 費用削減額(13年3月期対比) (億円)



(注1) 購買費、物流費は数量、為替による増減を除く

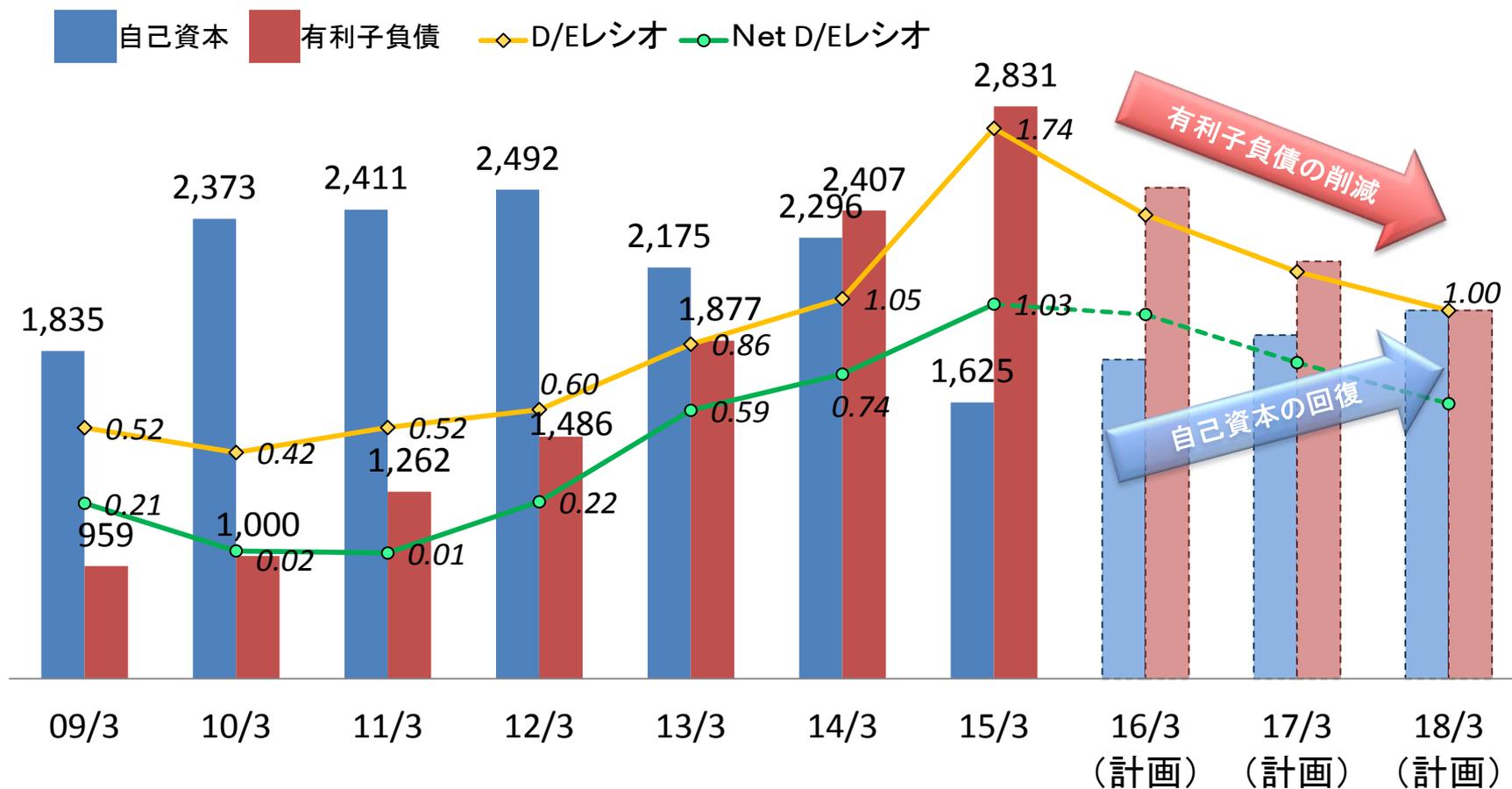
(注2) 費用削減額は削減対象となっている支出の13年3月期比減少額。この金額から在庫影響等を除いたものが損益への影響額となる

## 2. 経営方針 (1) 財務基盤の立て直し

( 連 結 )

### ③ 財務目標 (自己資本、有利子負債、D/Eレシオ)

2018年3月期までにD/Eレシオ $\leq$ 1.0を目指し自己資本の回復、有利子負債の削減を進める



## 2. 経営方針 (1) 財務基盤の立て直し

### ④ 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

利益配分につきましては、株主の皆様への継続的な安定配当を基本とし、業績の推移と中長期事業計画を勘案して実施しています。

2015年3月期の配当については、当期純損失計上による純資産の毀損に鑑み、事業リスクを考慮した健全な財務体質への回復を優先すべきと判断し、誠に遺憾ですが無配とさせていただきます。

次期の配当予想につきましても同様の理由から中間、期末とも無配とさせていただきます。当社といたしましては、財務体質の早期回復、安定的な収益力の構築を図り、早期に株主の皆様へ復配できるよう努めてまいります。

株主、投資家の皆様には何卒ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

	2010.3	2011.3	2012.3	2013.3	2014.3	2015.3	2016.3予
中間配当金(円)	3.0	3.0	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0
期末配当金(円)	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	0.0	0.0
配当性向(%)	25.5	21.4	22.3	—	20.4	—	—

(注) 2012年度及び2014年度の配当性向については、当期純損失であるため記載しておりません。

## 2. 経営方針 (2) 多結晶シリコン事業再構築

トクヤママレーシアの黒字化、徳山製造所の最適生産体制の確立を急ぐ

	～2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
 <p>トクヤママレーシア 製造能力: 13,800トン/年※ (太陽電池向け) ※PS-1の能力を除く</p>	P 11年2月建設開始 S 13年2月建設完了 1 14年9月減損処理	-----> 太陽電池向けの事業性 および有効活用策の検討		
	P 12年2月建設開始 S 14年1月建設完了 2 14年10月営業運転開始	-----> 15年10月～定修 16年1月～フル生 産体制確立	-----> プロセス改良による 更なるコストダウン 単月黒字化達成	-----> 通期黒字化 達成
 <p>徳山製造所 製造能力: 6,200トン/年※ (半導体向け) ※休止中の能力を除く</p>	09年4月増設完了 (→9,200トン/年) 12年8月多結晶シリコン市 況低迷を受け減産開始 13年3月減損処理	-----> 半導体向けグレードの需要に対応した 最適生産、安定供給(休止ラインの再稼働) 高品質化対応、コスト低減		

## 2. 経営方針 (3) 既存事業の更なる収益力強化

既存・新規事業の収益向上(収益改善計画)

### 2014年度までの実績

既存事業の構造改革推進、新規事業立ち上げ

#### 化成品

- ・液化水素事業立ち上げ
- ・塩ビ事業構造改革決定
- ・ソーダ灰共同事業会社営業開始
- ・酸化プロピレン製造能力増強

#### 特殊品

- ・窒化アルミニウム製造能力増強

### 2015年度以降の取り組み

既存事業の構造改革継続・完遂、新規事業の拡大、強みの強化・顕在化

#### 化成品

- ・液化水素事業拡大検討
- ・塩ビ樹脂千葉工場停止
- ・ソーダ灰国内製造1社体制の確立

#### 特殊品

- ・乾式シリカ高機能品拡充
- ・新規放熱材料の製品化検討
- ・現像液製造能力増強の検討

## 2. 経営方針 (3) 既存事業の更なる収益力強化

既存・新規事業の収益向上(収益改善計画)

### 2014年度までの実績

既存事業の構造改革推進、新規事業立ち上げ

#### セメント

- ・廃石膏ボードリサイクル事業立ち上げ
- ・クリンカ輸出インフラ強化

#### ライフアメニティー

- ・ジェネリック医薬品向け原薬の拡販
- ・歯科器材の海外展開加速

### 2015年度以降の取り組み

既存事業の構造改革継続・完遂、新規事業の拡大、強みの強化・顕在化

#### セメント

- ・廃石膏ボードリサイクル事業拡大
- ・インフラ補修・補強事業拡大

#### ライフアメニティー

- ・紙おむつ向け微多孔質フィルムの拡販
- ・フォトクロミック材料の販売数量増
- ・ジェネリック医薬品向け原薬の生産体制整備

#### 研究開発

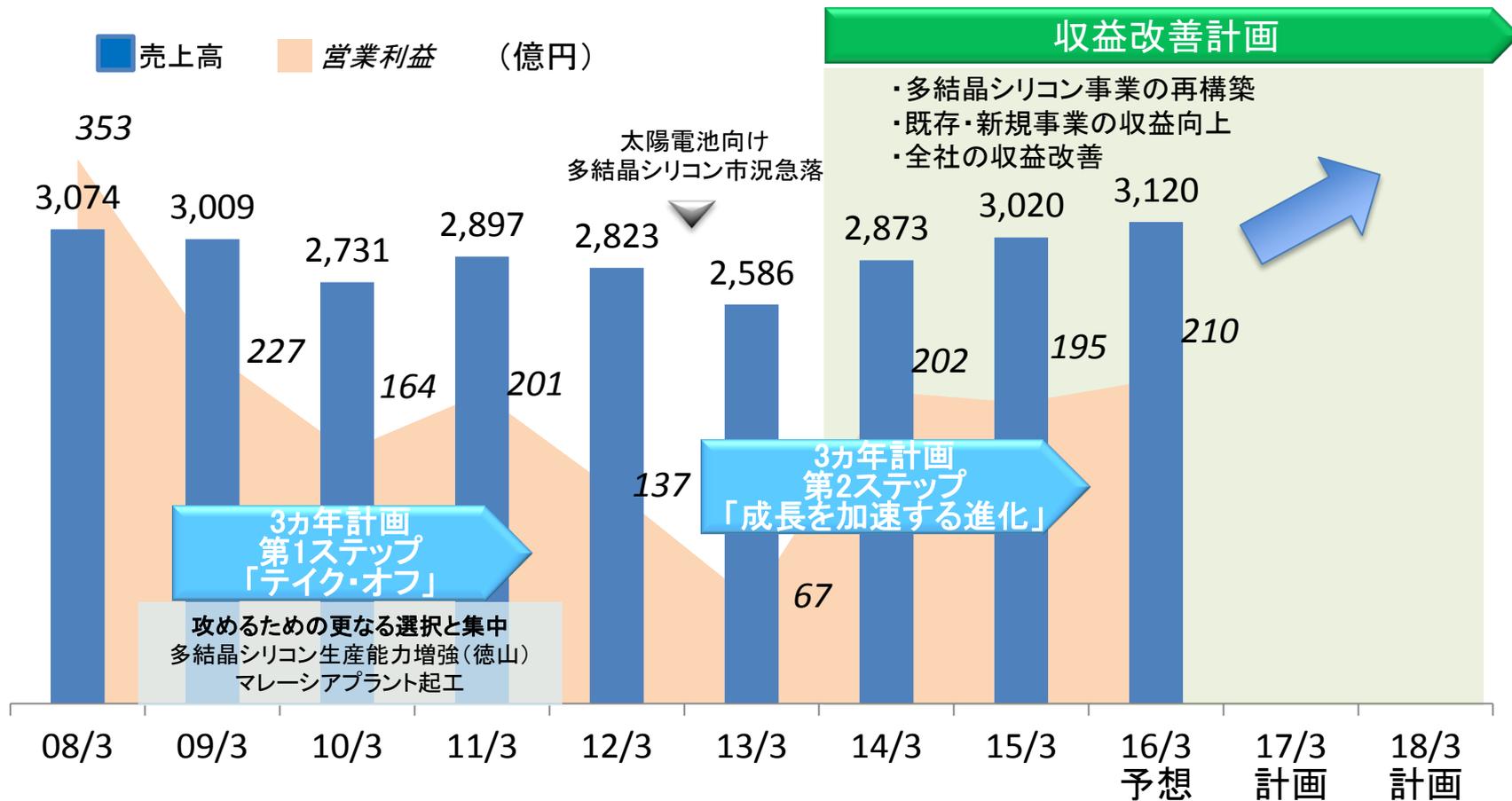
- ・既存事業・技術の強みを生かした新製品開発

# 2. 経営方針

18年3月期の新中期経営計画については、現在策定中。

**100周年ビジョン「挑戦と変革」**

- ・国際競争力の強化
- ・戦略的成長事業の強化



## 2. 経営方針

### まとめ

多結晶シリコン事業で毀損した純資産の増強を図るべく、財務基盤の立て直しを最優先課題に位置付け、経営改革を断行します。顧客起点に立ち既存事業をベースに収益力の高い強い企業体になるために、業務のあり方・組織体制を見直し、生産性・効率性を向上させ事業の拡大を図ります。

なお、収益目標を含めた2015年度からの新中期経営計画は現在策定中です。次回2016年3月期第1四半期決算発表時に公表する予定です。

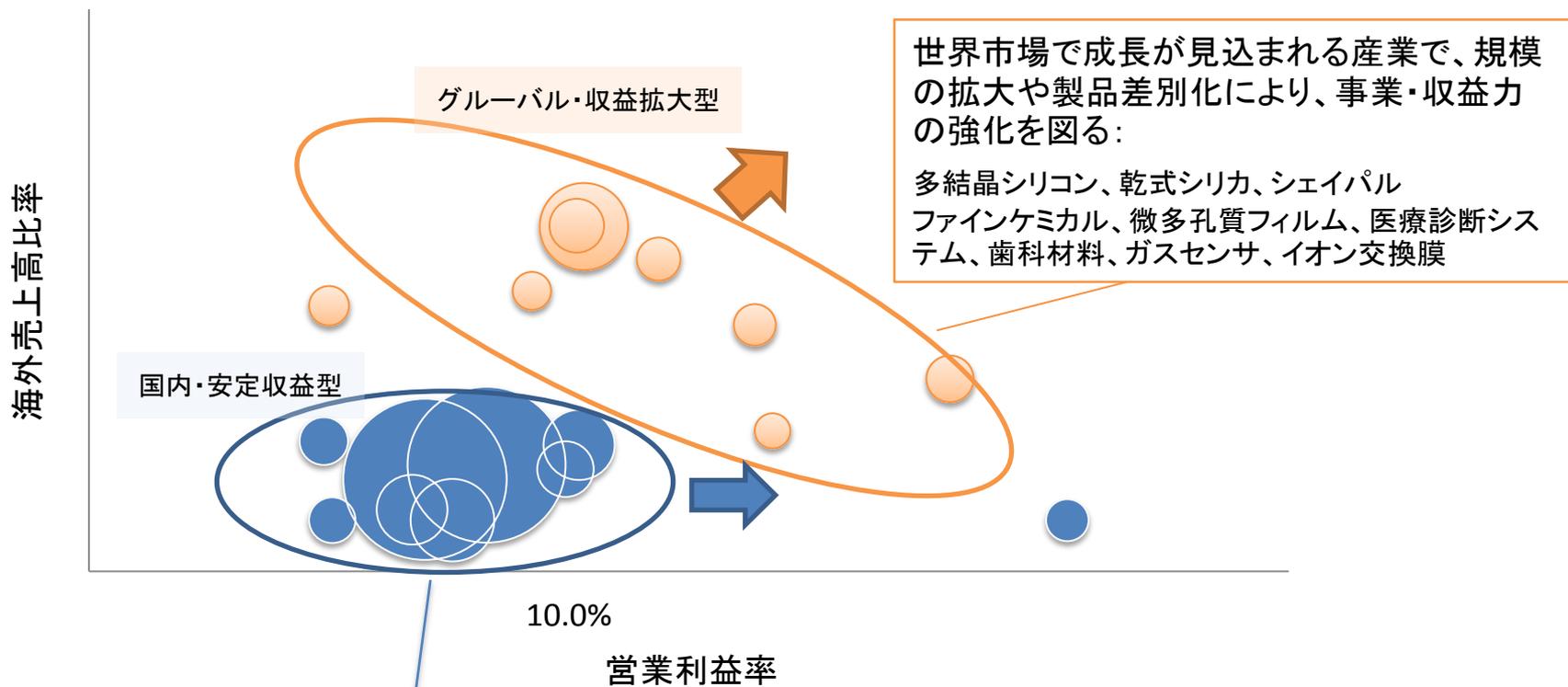
株主・投資家の皆様をはじめ、ステークホルダーの皆様方からの引き続きのご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## **4** 事業戦略

1. 全社事業ポートフォリオ
2. 化成品セグメント
3. 特殊品セグメント
4. セメントセグメント
5. ライフアメニティーセグメント

# 1. 全社事業ポートフォリオ

既存事業の強化・再構築・入れ替えと周辺領域における新製品開発・事業拡大により、事業環境の変動に対して強靱かつバランスのとれた事業ポートフォリオを構築する



主に国内で使用される素材、部材を扱う産業で、コスト削減や合理化等により、安定した収益力の確保を図る：  
セメント、資源環境、ソーダ・塩カル、クロルアルカリ・塩ビ、ポリオレフィンフィルム、樹脂サッシ

## 2. 化成品セグメント

### 基本方針

- 安定的な利益を計上し、全社の収益を下支えするとともに、事業ポートフォリオの見直しにより更なる成長を目指す

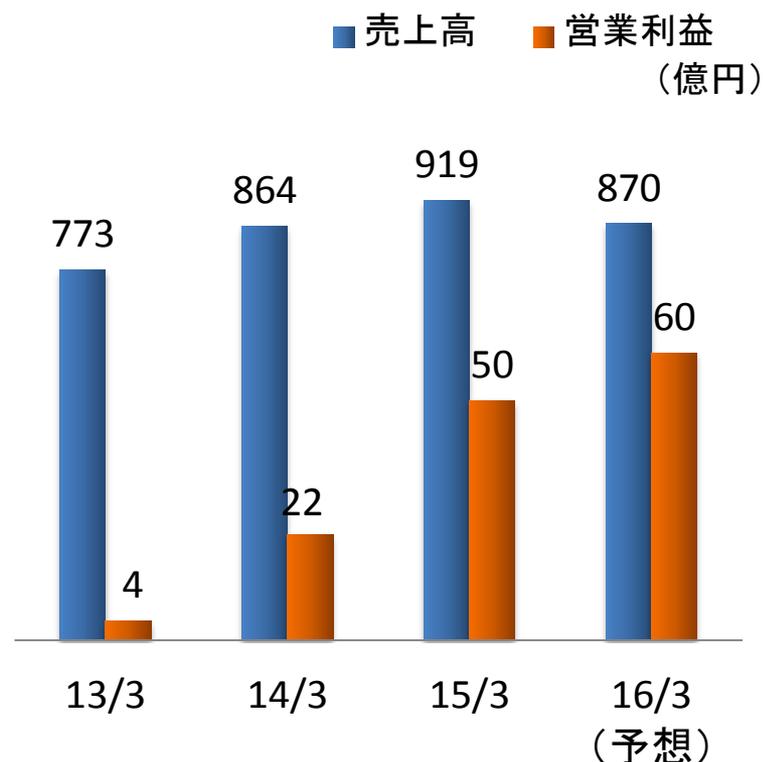
### 施策

#### <ソーダ・塩カル事業>

- トクヤマ・セントラルソーダ設立によるソーダ灰供給国内1社体制、安定販売体制の確立

#### <クロルアルカリ・塩ビ事業>

- 苛性ソーダの更なる原価低減を目指した自家発電+電解の競争力強化
- 塩素誘導品の収益力強化(酸化プロピレン増強、PVC合理化、新製品開発など)
- 水素有効利用の促進(液化水素、燃料代替)



## 2. 化成品セグメント

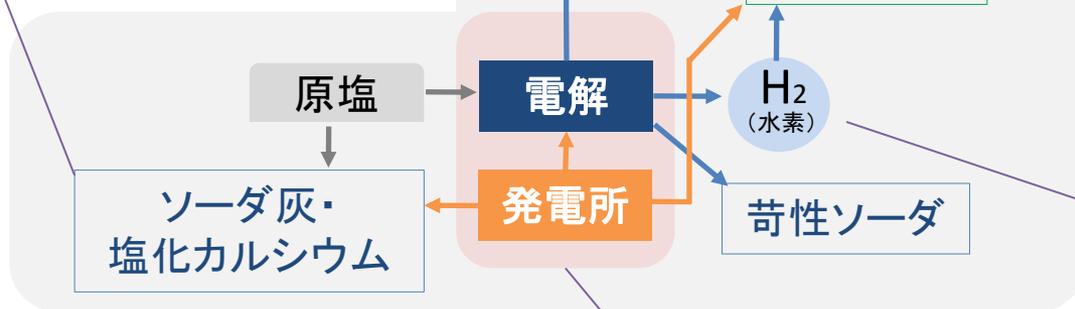
### 事業再構築・競争力強化の取り組み



#### ソーダ灰・塩カル事業統合

15年6月以降、国内のソーダ灰生産はトクヤマ1社体制に

徳山製造所  
ソーダ・電解チエン



#### 自家発電+電解の競争力強化

#### 酸化プロピレン増強

(14年9月)

需要に対応した供給体制構築



#### 新第一塩ビ千葉工場を停止

(15年9月末)

競争力の高い徳山工場へPVC生産を集約



#### 水素の有効利用

液化水素事業の拡大検討

製造所の代替燃料として活用

## 3. 特殊品セグメント

### 基本方針

- 顧客や市況など市場環境の変化を的確にとらえた販売戦略・最適生産体制を推進する

### 施策

#### <多結晶シリコン(半導体向けグレード)事業>

- 既存ユーザーとの関係強化、取引拡大
- 徳山製造所における安定供給、高品質化対応

#### <多結晶シリコン(太陽電池向けグレード)事業>

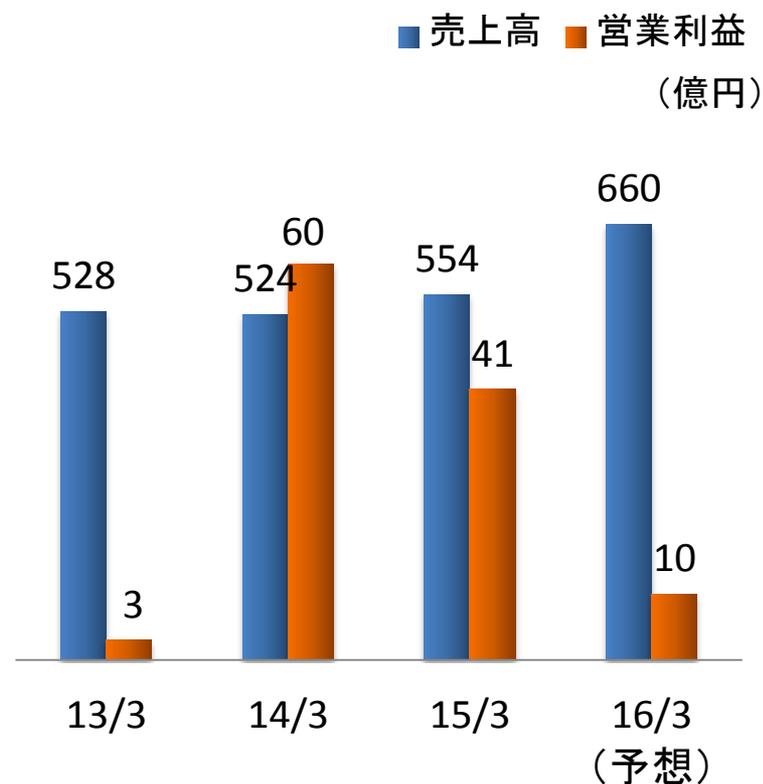
- トクヤママレーシアのフル稼働、コストダウン
- 品質・コスト競争力を武器にシェア拡大を図り、市場におけるTOKUYAMAのプレゼンスを確立する

#### <乾式シリカ事業>

- 高機能品の拡充、徳山化工との最適生産確立

#### <シェイパル(窒化アルミニウム)事業>

- 生産能力増強と「放熱」市場での事業拡大



# 3. 特殊品セグメント

## 多結晶シリコン事業（半導体向けグレード）

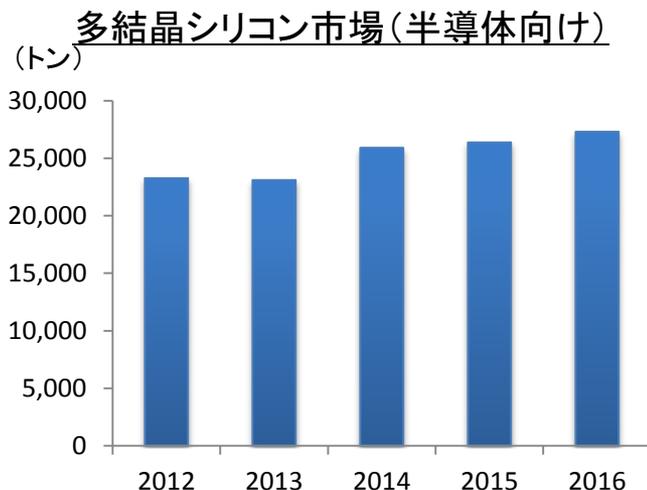
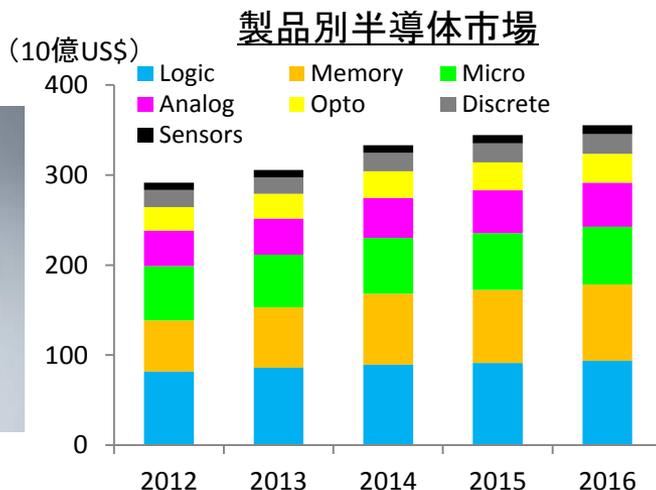
高機能化の進むスマートフォン向けを筆頭に、半導体市場は今後も年平均3-4%の成長が期待される。

半導体の高性能化（微細化）進行で、原料である多結晶シリコンへの品質要求レベルも年々高まっている。

- ・品質競争力のある徳山製造所の増産（休止ラインの再稼働）も視野に、需要に対応した生産体制を確立する
- ・顧客のニーズを的確に把握し、迅速に対応することで、更なる品質向上を目指し、顧客との関係強化・取引拡大を図る



多結晶シリコン



(注)WSTS公表データを基に当社作成

(注)当社予測

## 4. セメントセグメント

### 基本方針

- 事業環境の変化に対応した最適な製造・販売・物流体制の整備と海外事業及び新規事業の育成・強化

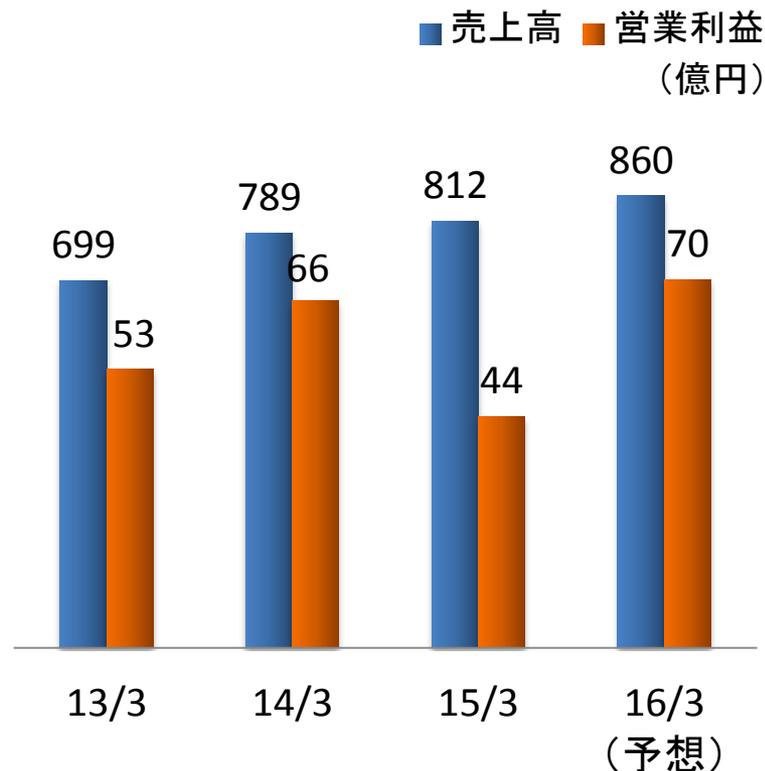
### 施策

#### <セメント事業>

- 石炭削減・可燃系廃棄物受入増を軸とした原価低減
- クリンカ輸出体制の確立とトクヤマニューカレドニアの安定操業
- トクヤマエムテックによるインフラの補修・補強事業の拡充

#### <資源環境事業>

- トクヤマ・チヨダジプサムによる廃石膏ボードリサイクル事業の拡大(関東工場の建設開始)



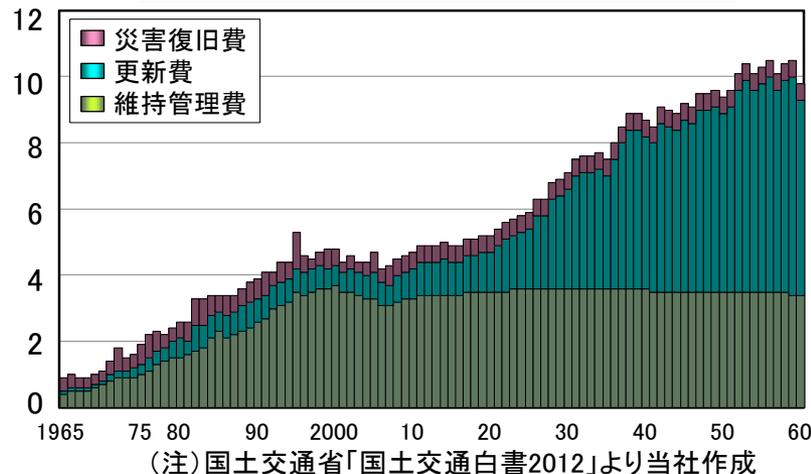
## 4. セメントセグメント

### インフラ補修・補強事業(トクヤマエムテック)

社会問題化しているインフラ再生に関する新しい技術ニーズに加え、東京オリンピック開催に伴うインフラ整備案件増加が見込まれる

ユーザーと密着した開発体制を構築するため、千葉県袖ヶ浦市の工場隣接地に、首都圏セメント建材開発センターを設立、15年1月より稼働開始  
耐震補強、橋脚、道路、港湾、トンネル、地盤改良の6分野の製品を重点的に開発し、トクヤマエムテックのインフラ補修・補強事業拡大を図る

[兆円] インフラ維持管理・更新費の長期予測



インフラの補修事例(老朽化した高架橋補修)

# 5. ライフアメニティーセグメント

## 基本方針

- 顧客起点の開発・製造・販売体制の確立・強化により、国内外の市場で優位なポジションを獲得、事業の拡大を図り、人々の生活・健康(QOL)の改善に貢献する

## 施策

### <NF事業(微多孔質フィルム)>

- 中国事業の収益拡大

### <ファインケミカル事業>

- 眼鏡レンズ用フォトリソミック材料のシェア拡大、ジェネリック医薬品向け原薬の拡販継続

### <ポリオレフィンフィルム事業(サン・トックス)>

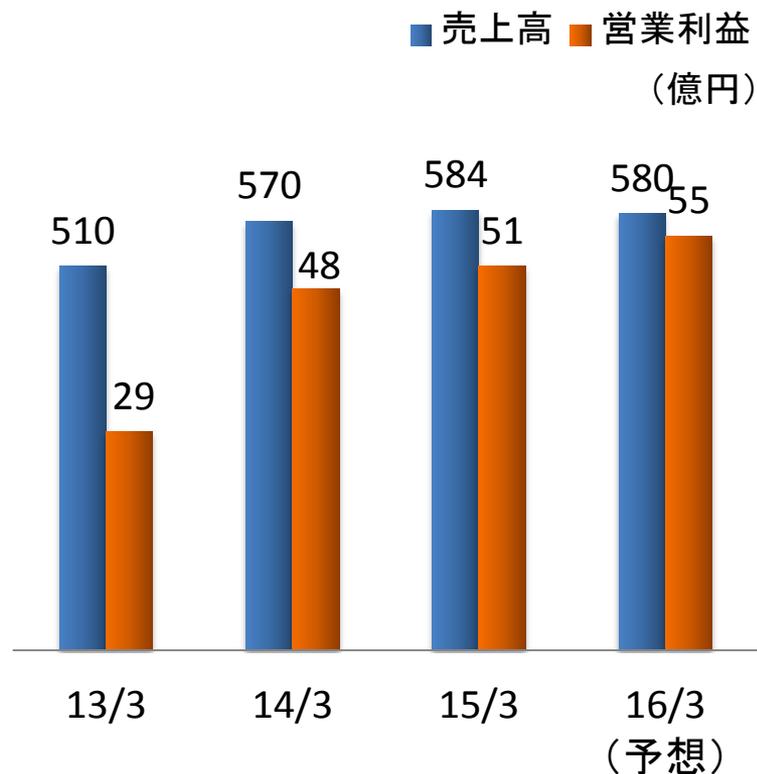
- 新規グレードの開発・拡販とコストダウン

### <ガスセンサ(フィガロ技研)>

- 新製品の市場投入、オートメーション化の推進による収益拡大

### <歯科器材(トクヤマデンタル)>

- 新製品の上市、海外展開の加速

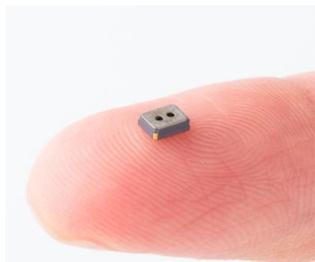


## 5. ライフアメニティーセグメント

### ガスセンサ事業(フィガロ技研)

#### 新製品(MEMS\*タイプガスセンサ)の市場投入

モバイル機器や、環境モニター、監視ロボットなど  
様々なM2M機器への応用できるセンサを開発



✓ 世界最小クラス

0.99mm × 2.5mm × 3.2mm

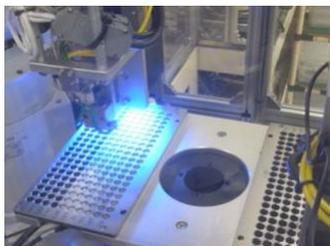
✓ 低消費電力

従来品210mWから15mWに低減

\*MEMS: Micro Electro Mechanical Systems

#### オートメーション化の推進

主力製品である電気化学式COセンサの製造ライン  
をオートメーション化した



✓ 品質の向上

✓ 低コスト化

✓ 大量生産

#### センサ(全品種)の販売計画

(百万個)



Chemistry with a heart

**TOKUYAMA**





## 5 補足資料

1. 連結財務諸表(要約)
2. キャッシュ・フローの状況
3. 営業外損益の内訳
4. 特別損益の内訳
5. セグメント別売上高／営業利益
6. 主要指標
7. 業績推移
8. 主要原燃料価格推移
9. 設備投資額・減価償却費推移
10. 有利子負債残高推移
11. フリー・キャッシュフロー推移
12. 業績予想(上期・下期)
13. 主要グループ会社
14. 多結晶シリコン市場動向
15. 太陽電池市場動向

5 補足資料

# 1. 連結財務諸表(要約)

## 損益計算書

(億円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	増減	
			金額	%
売上高	2,873	3,020	+147	+5
売上原価	2,069	2,189	+119	+6
販管費	600	636	+35	+6
営業利益	202	195	△7	△4
営業外損益	△53	△66	△13	-
経常利益	149	129	△20	△14
特別損益	△20	△779	△758	-
税前当期純損益	129	△649	△779	-
法人税等	27	3	△23	△87
当期純損益	102	△653	△755	-

## 1. 連結財務諸表(要約)

## 貸借対照表

(億円)

	2014年 3月末	2015年 3月末	増減	
			金額	%
資産合計	5,763	5,545	△217	△4
流動資産	1,916	2,439	+523	+21
有形固定資産	3,231	2,533	△697	△28
無形固定資産	101	97	△3	△4
投資その他の資産	514	474	△40	△8

	2014年 3月末	2015年 3月末	増減	
			金額	%
負債合計	3,398	3,850	+452	+12
流動負債	992	1,172	+180	+15
固定負債	2,405	2,677	+272	+10
純資産合計	2,364	1,694	△670	△40

5 補足資料

## 2. キャッシュ・フローの状況

連 結

(億円)

	2014年 3月期	2015年 3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー①	341	307
投資活動によるキャッシュ・フロー②	△644	△255
フリー・キャッシュ・フロー③(①+②)	△302	52
財務活動によるキャッシュ・フロー④	459	405
現金及び現金同等物に係る換算差額⑤	14	3
現金及び現金同等物の増減額⑥(③+④+⑤)	171	461
現金及び現金同等物の期首残高⑦	524	699
連結の範囲変更及び連結子会社の決算期変更に伴う増減額⑧	4	0
現金及び現金同等物の期末残高⑨(⑥+⑦+⑧)	699	1,161

### 3. 営業外損益の内訳

連 結  
( 前 期 比 )

(億円)

		2014年 3月期	2015年 3月期	差損益	備 考
営業外収益	受取利息・配当金	5	7	+1	
	その他	24	21	△3	為替差益減 △4
	計	30	28	△1	
営業外費用	支払利息・社債利息	27	47	△20	
	その他	56	47	+8	借入関連費用 (前期に発生) +17 休止部門費減 +14 試作費用 △15 為替差損 △4
	計	83	94	△11	
営業外損益		△53	△66	△13	

(注) 差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

## 4. 特別損益の内訳

連  
( 前 期 比 ) 結

(億円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	差損益	備 考
特 別 利 益	6	105	+98	投資有価証券売却益 +100
特 別 損 失	27	884	△857	固定資産減損損失 △756 購入契約損失(引当含む) △109
特 別 損 益	△20	△779	△758	

(注)差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

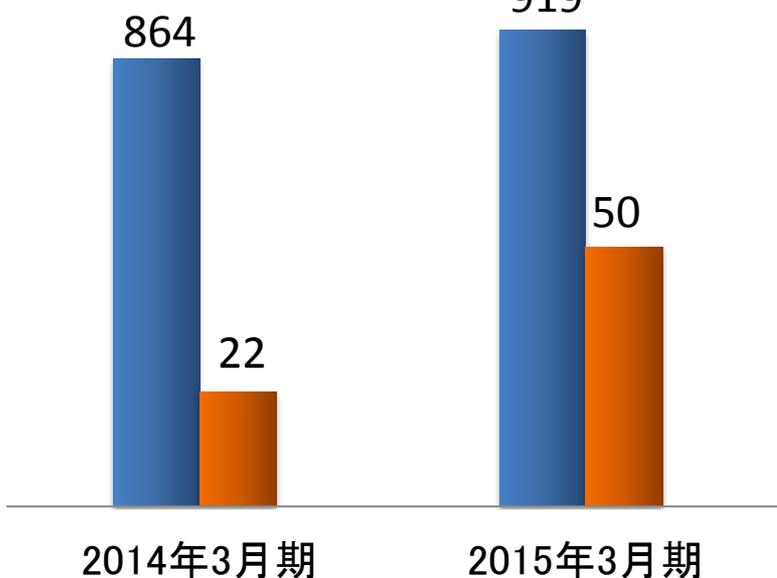
## 5. セグメント別売上高／営業利益 (前期比)

### 化成品

### 増収増益

■ 売上高 ■ 営業利益

(億円)



### 定性情報

#### (苛性ソーダ)

- ・国内向け販売数量の増加
- ・原料価格上昇に対応した価格是正

#### (ソーダ灰・塩化カルシウム)

- ・トクヤマ・セントラルソーダ営業開始による増収

#### (塩ビモノマー)

- ・国産ナフサ価格の下落による原料コストの減少
- ・アジア市況の改善及び円安による損益改善

#### (塩ビ樹脂)

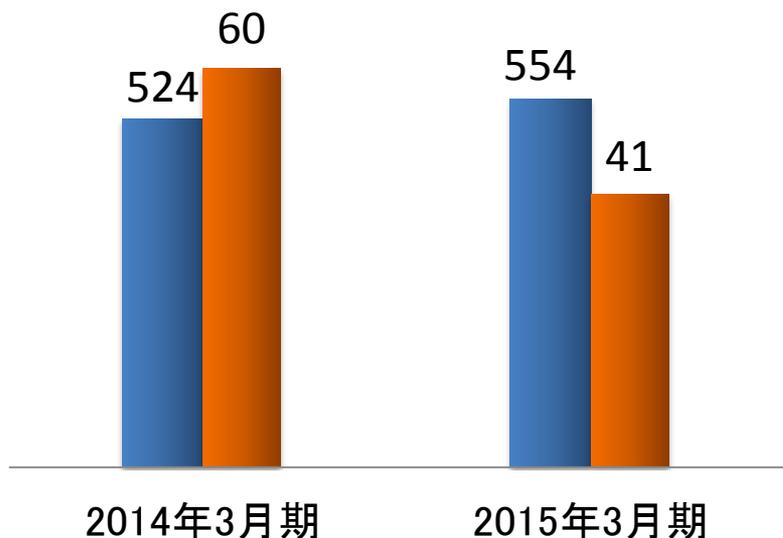
- ・住宅着工数落ち込みによる販売数量減
- ・原料価格上昇に対応した価格是正

## 5. セグメント別売上高／営業利益 (前期比)

### 特殊品

### 増収減益

■ 売上高 ■ 営業利益  
(億円)



### 定性情報

#### (多結晶シリコン)

- ・半導体向けは、スマートフォンなど携帯端末の需要の伸長を背景に販売数量増
- ・太陽電池向けは、トクヤママレーシアからの出荷開始により販売数量増

#### (乾式シリカ)

- ・半導体用研磨材向けを中心に販売数量増

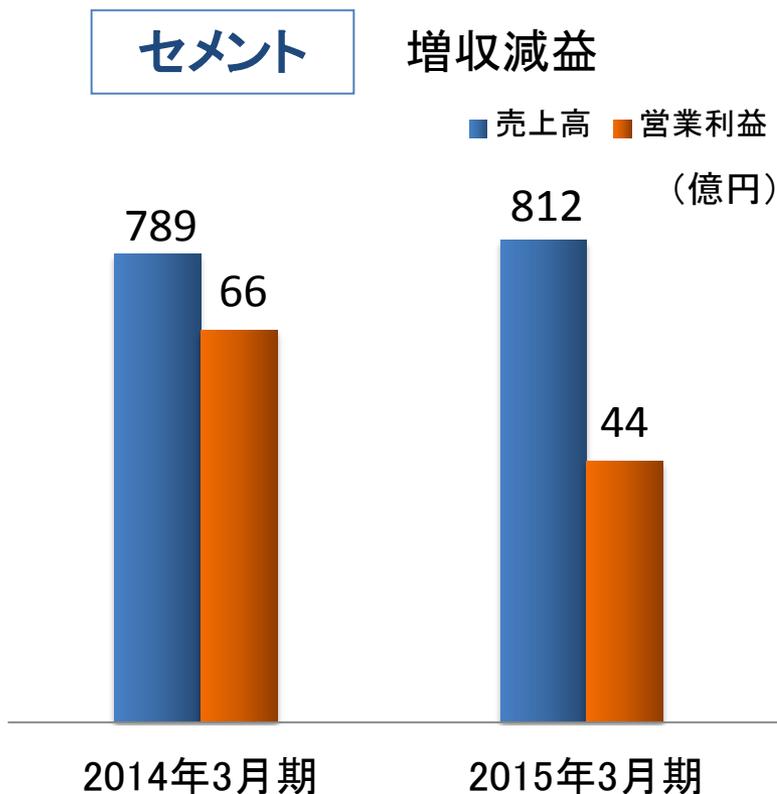
#### (窒化アルミニウム)

- ・パワーデバイスやLED向けを中心に販売数量増

#### (電子工業用高純度薬品)

- ・半導体及び液晶製造向けに販売数量増

## 5. セグメント別売上高／営業利益 (前期比)



### 定性情報

#### (セメント)

- ・人手不足、天候不順による工事遅れの影響で国内販売数量減
- ・需要が堅調なアジア向けに輸出数量増
- ・セメントタンカー新造等による物流コストの増加
- ・広島トクヤマ生コン営業開始による増収

#### (資源環境事業)

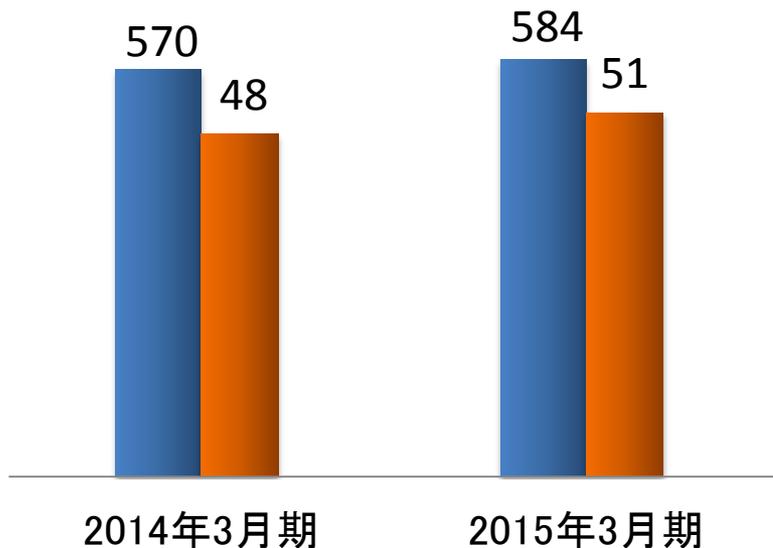
- ・クリンカー生産量の減少に伴い廃棄物受入量減

## 5. セグメント別売上高／営業利益 (前期比)

### ライフアメニティー

### 増収増益

■ 売上高 ■ 営業利益  
(億円)



### 定性情報

(医薬品原薬)

・ジェネリック医薬品向けを中心に販売数量増

(プラスチックレンズ関連材料)

・フォトクロミック材料の販売数量増

(微多孔質フィルム)

・天津工場稼働開始により販売数量増

(ポリオレフィンフィルム)

・コンビニ向けを中心に販売数量増

・原料価格上昇に対応した販売価格是正

(ガスセンサ)

・ガス警報器や空気清浄機用途を中心に販売数量増

(医療診断システム)

・血液検査向けに販売数量増

・コストダウンによる利益率改善

(樹脂サッシ)

・消費増税による需要の反動減で販売数量減

## 6. 主要指標①

( 前 期 比 )

		2014年3月期		2015年3月期		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	億円	610	51	253	83	△357	+32
減価償却実施額	億円	167	113	188	104	+21	△8
研究開発費	億円	87	64	101	78	+14	+14
金融収支	億円	△21	19	△40	36	△18	+17

## 6. 主要指標②

(前期末比)

		2014年3月末		2015年3月末		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
有利子負債	億円	2,407	2,200	2,831	2,626	+424	+425
期末人員	人	5,756	2,041	5,852	1,970	+96	△71

## 6. 主要指標③

(予想の前期比)

(億円)

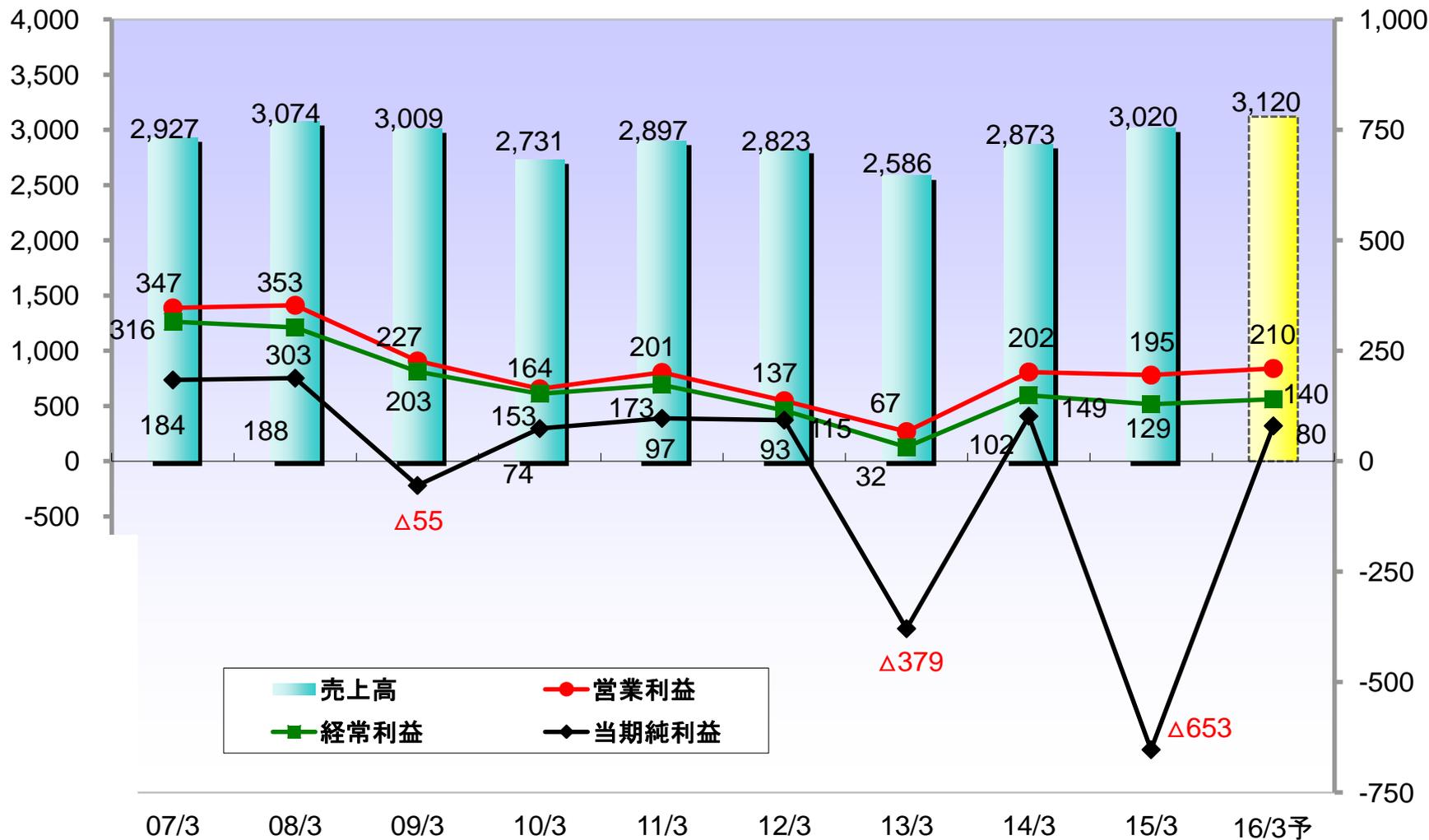
	2016年3月期 予想		2015年3月期 実績		増 減	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	189	100	253	83	△64	+16
減価償却費	222	110	188	104	+33	+6
研究開発費	95	70	101	78	△6	△8

# 7. 業績推移

連 結 ( 通 期 )

売上高(億円)

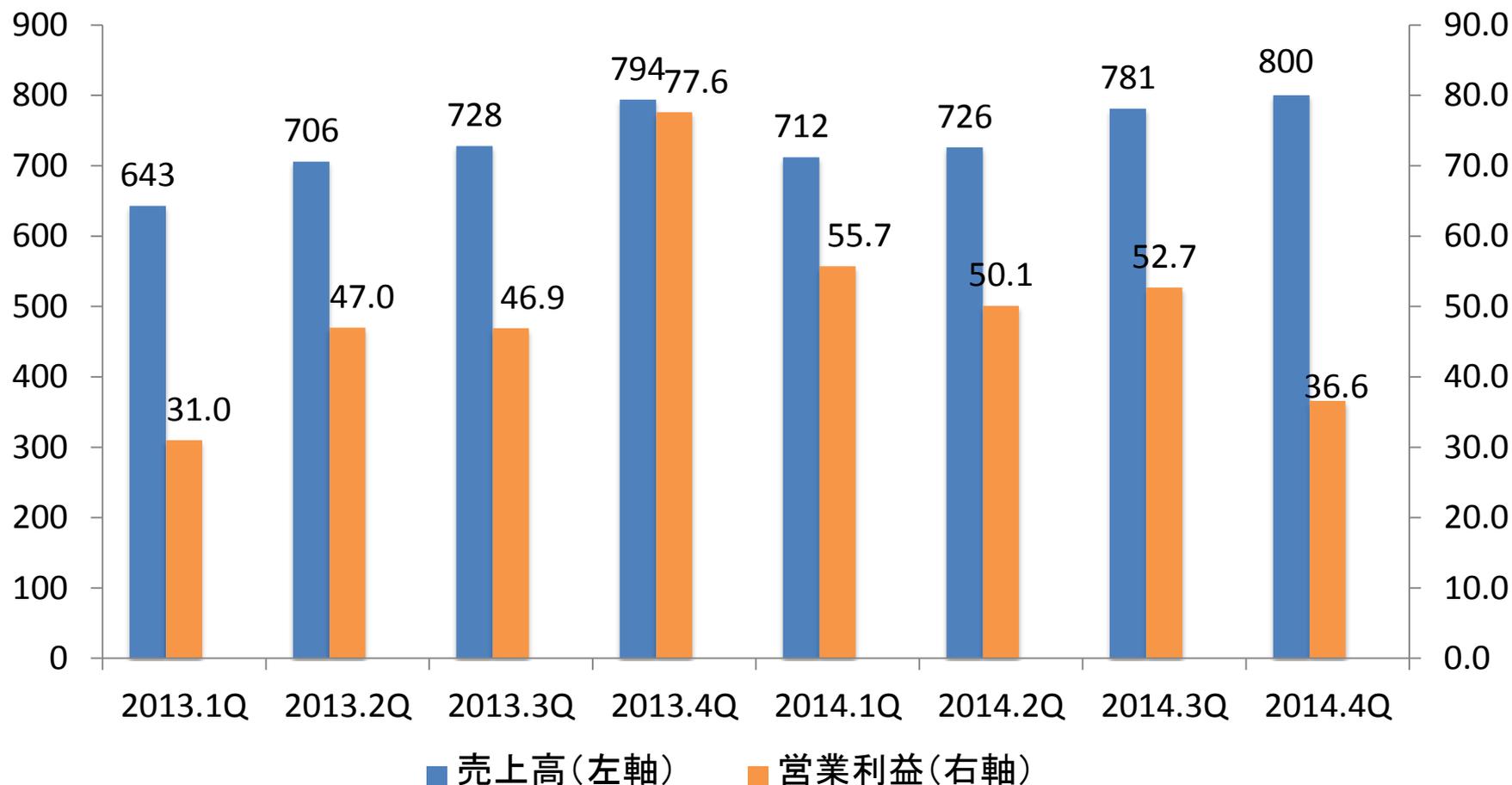
利益(億円)



# 7. 業績推移 ( 四 半 期 )

連結

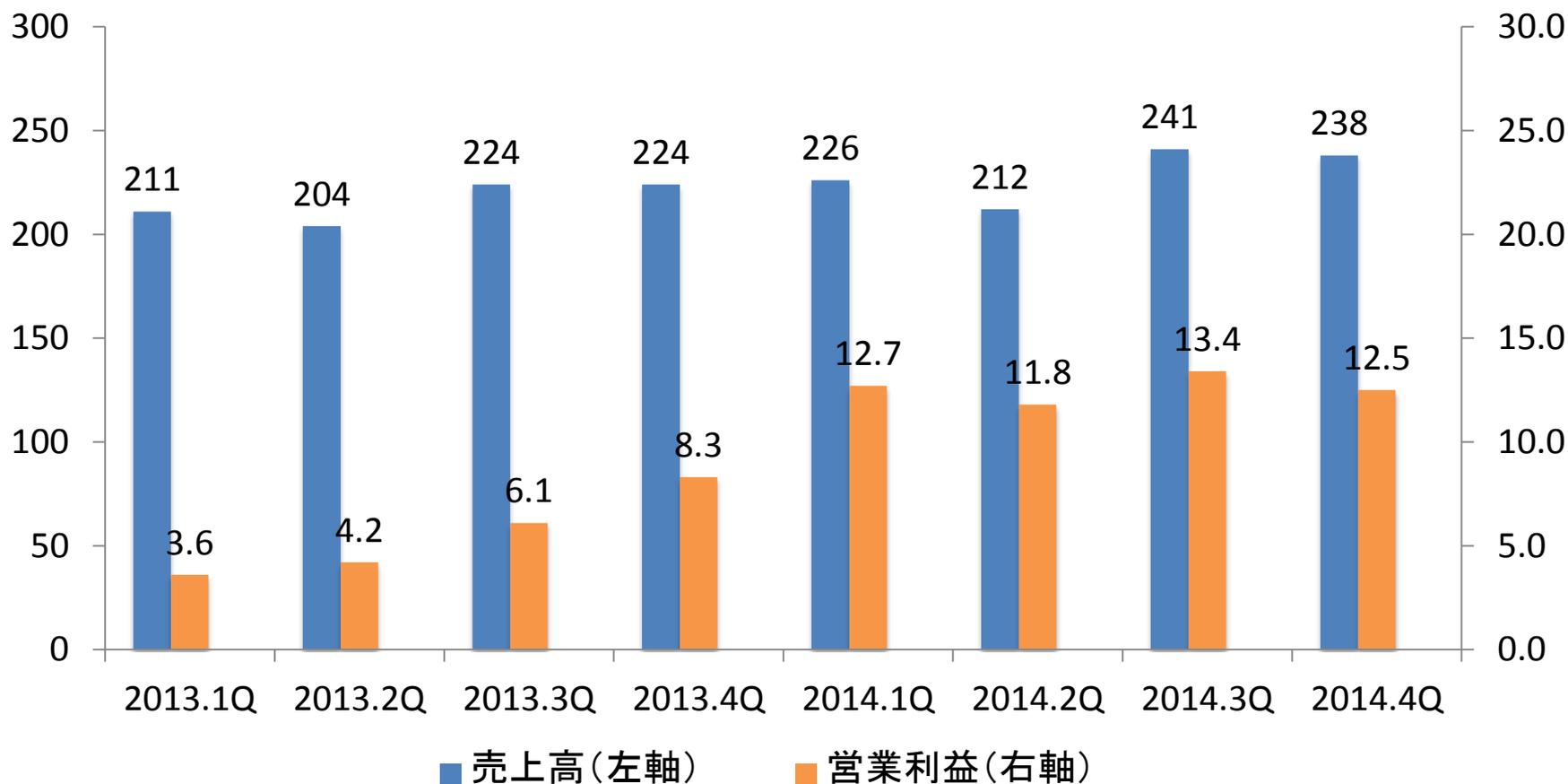
(億円)



# 7. 業績推移 ( 四 半 期 )

## 化成品

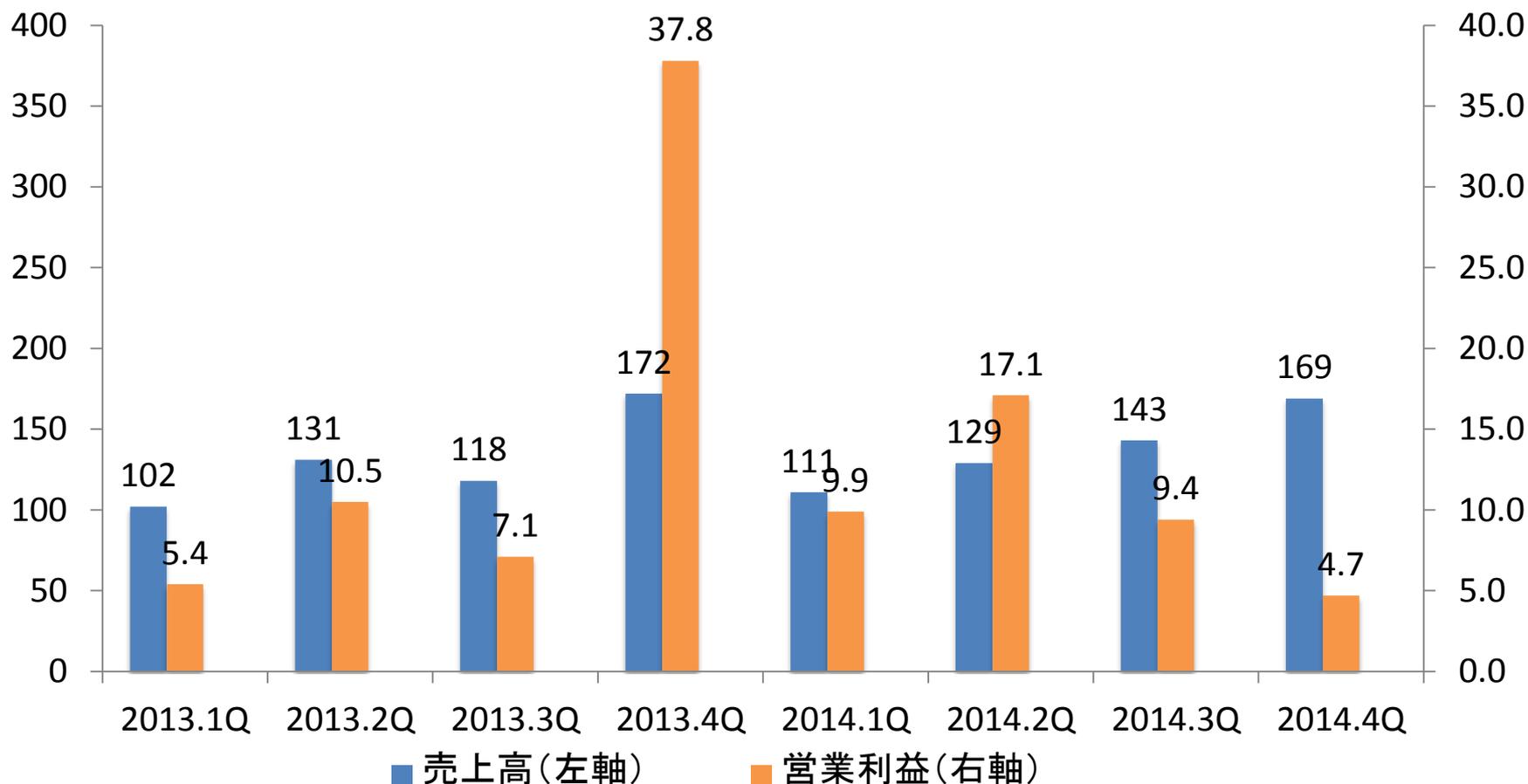
(億円)



# 7. 業績推移 ( 四 半 期 )

## 特殊品

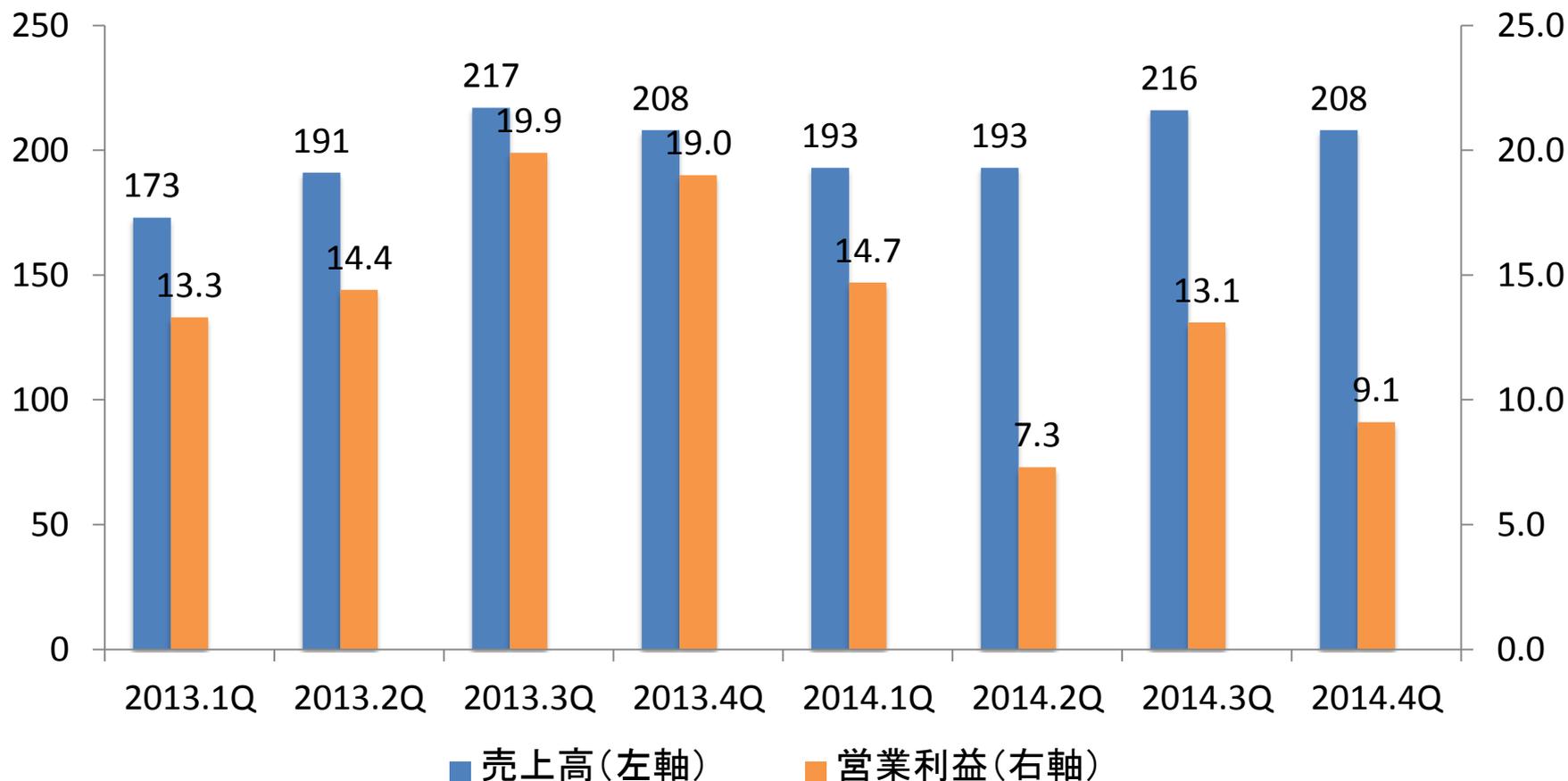
( 億 円 )



# 7. 業績推移 ( 四 半 期 )

## セメント

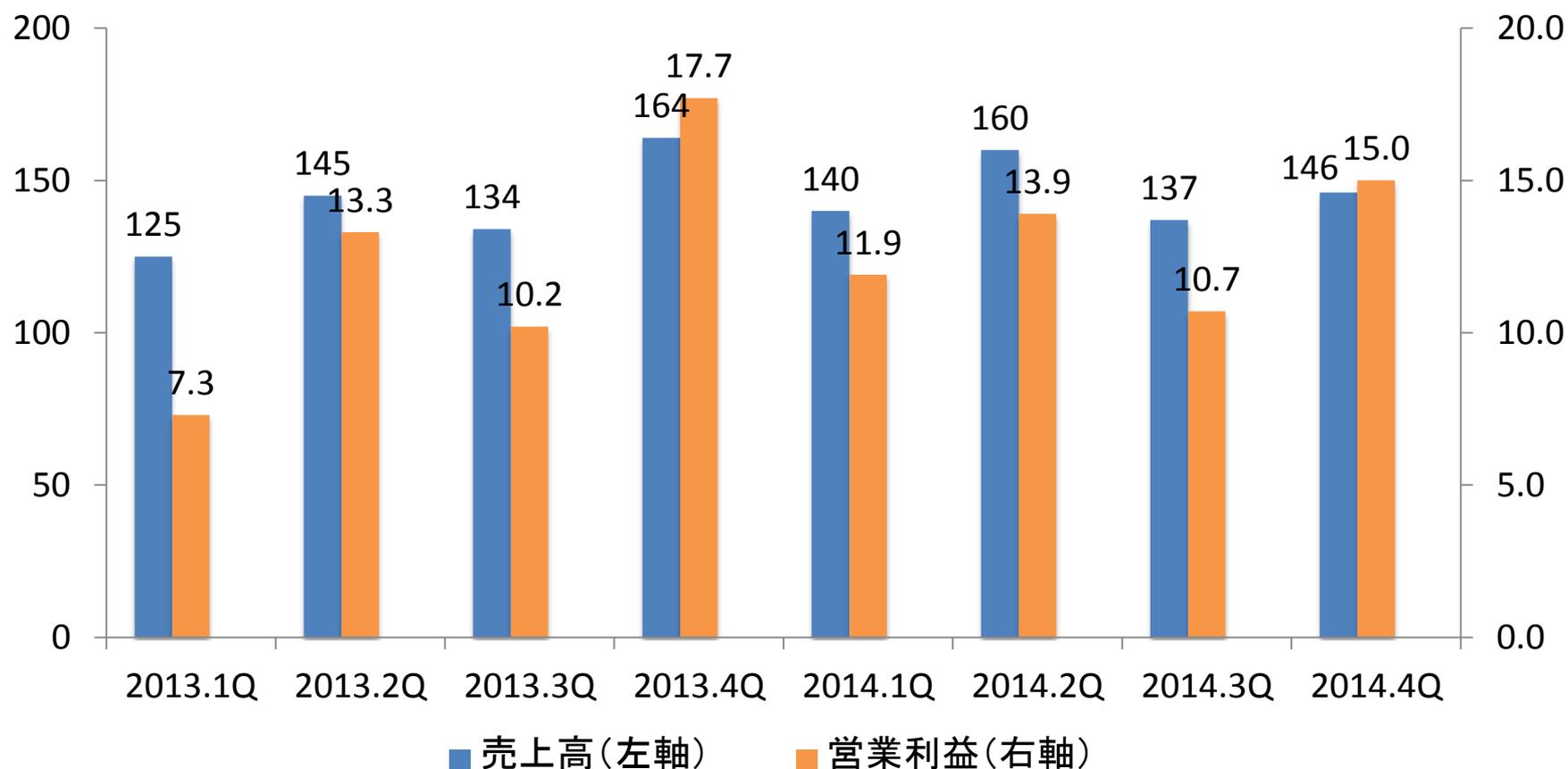
(億円)



## 7. 業績推移 ( 四 半 期 )

### ライフアメニティー

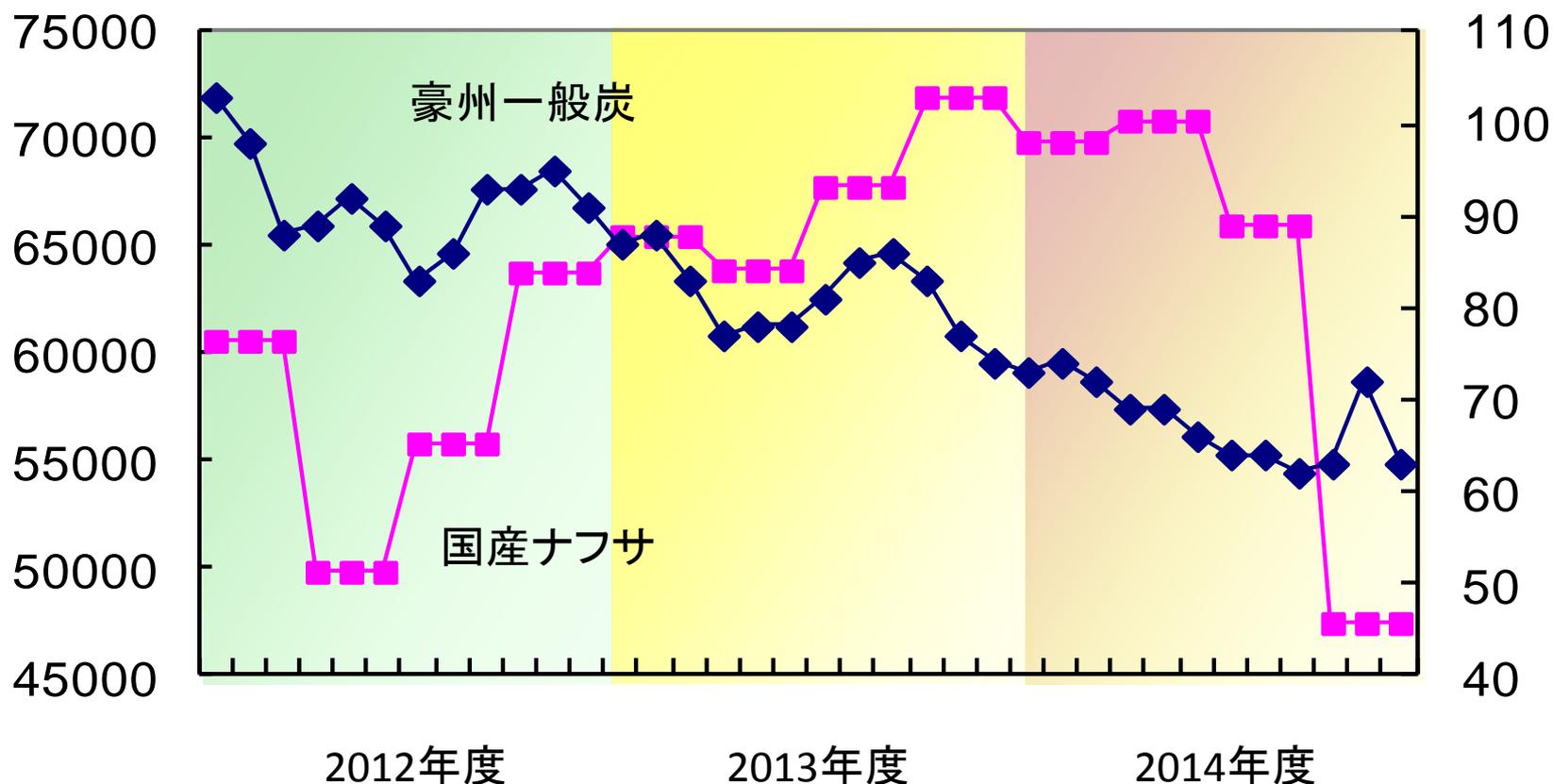
(億円)



# 8. 主要原燃料価格推移

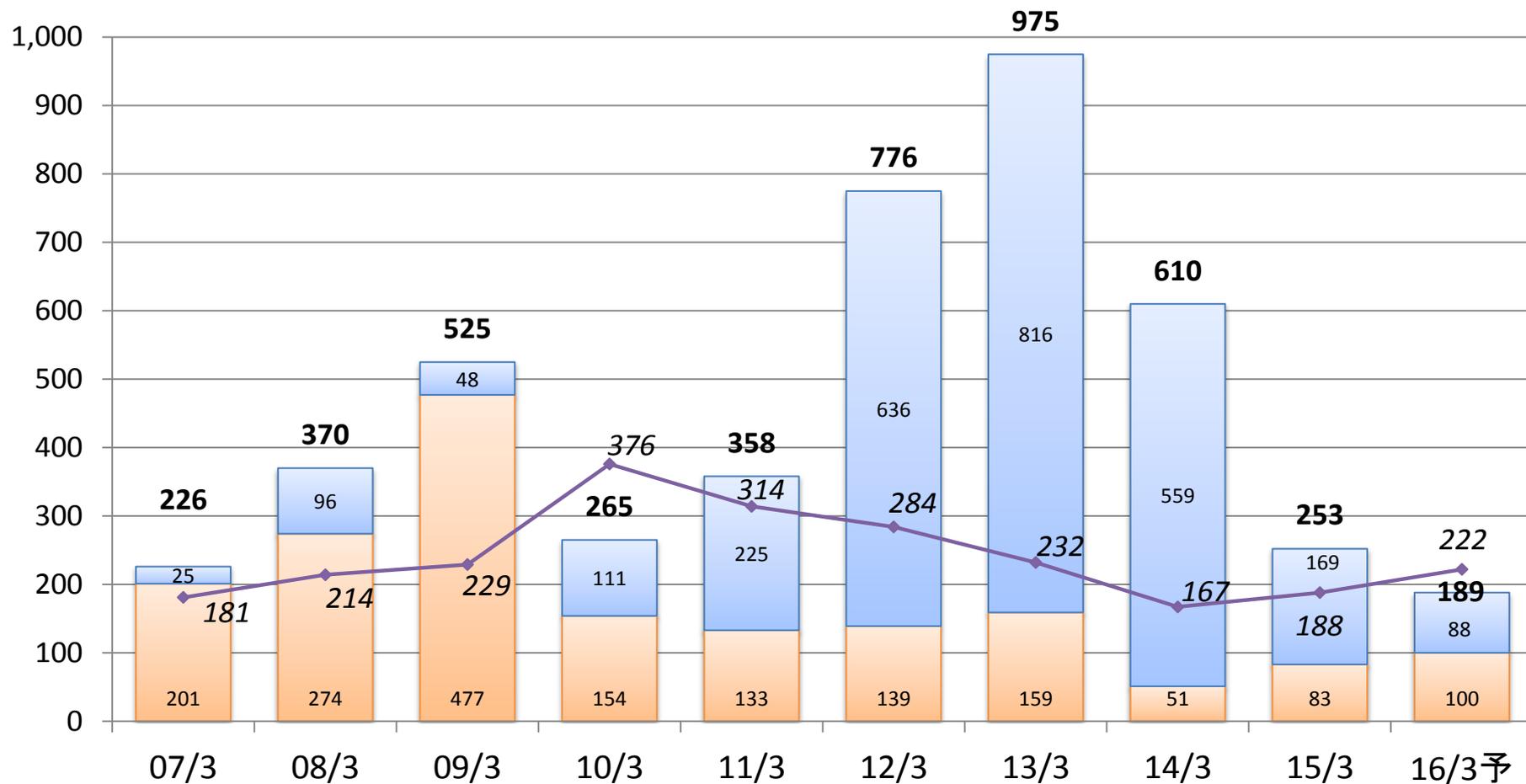
国産ナフサ価格  
(円/kl)

豪州一般炭スポット価格  
(\$/トン)



# 9. 設備投資額・減価償却費推移

(億円)    設備投資額(連結子会社)    設備投資額(単体)    減価償却費(連結)

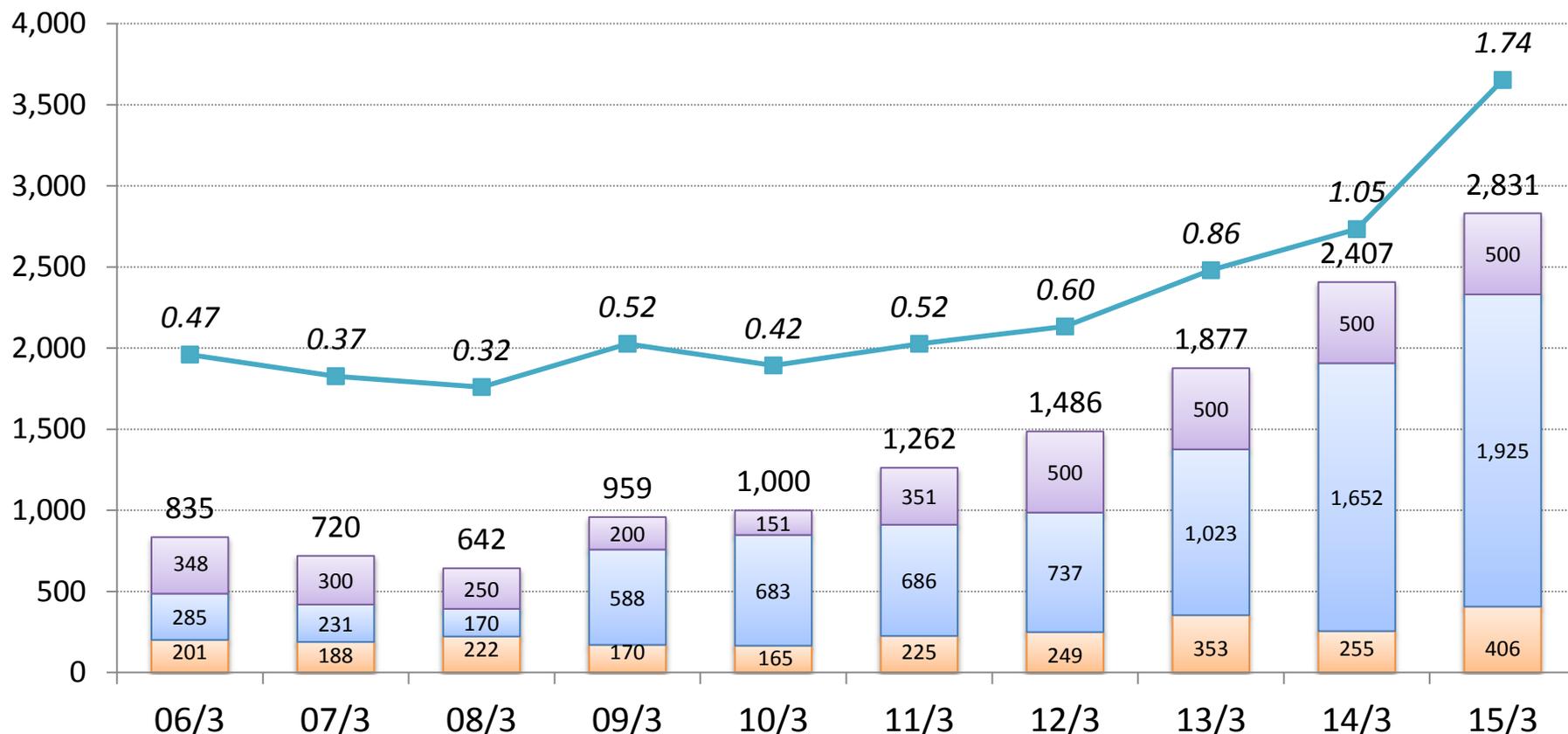


# 10. 有利子負債残高推移

連 結

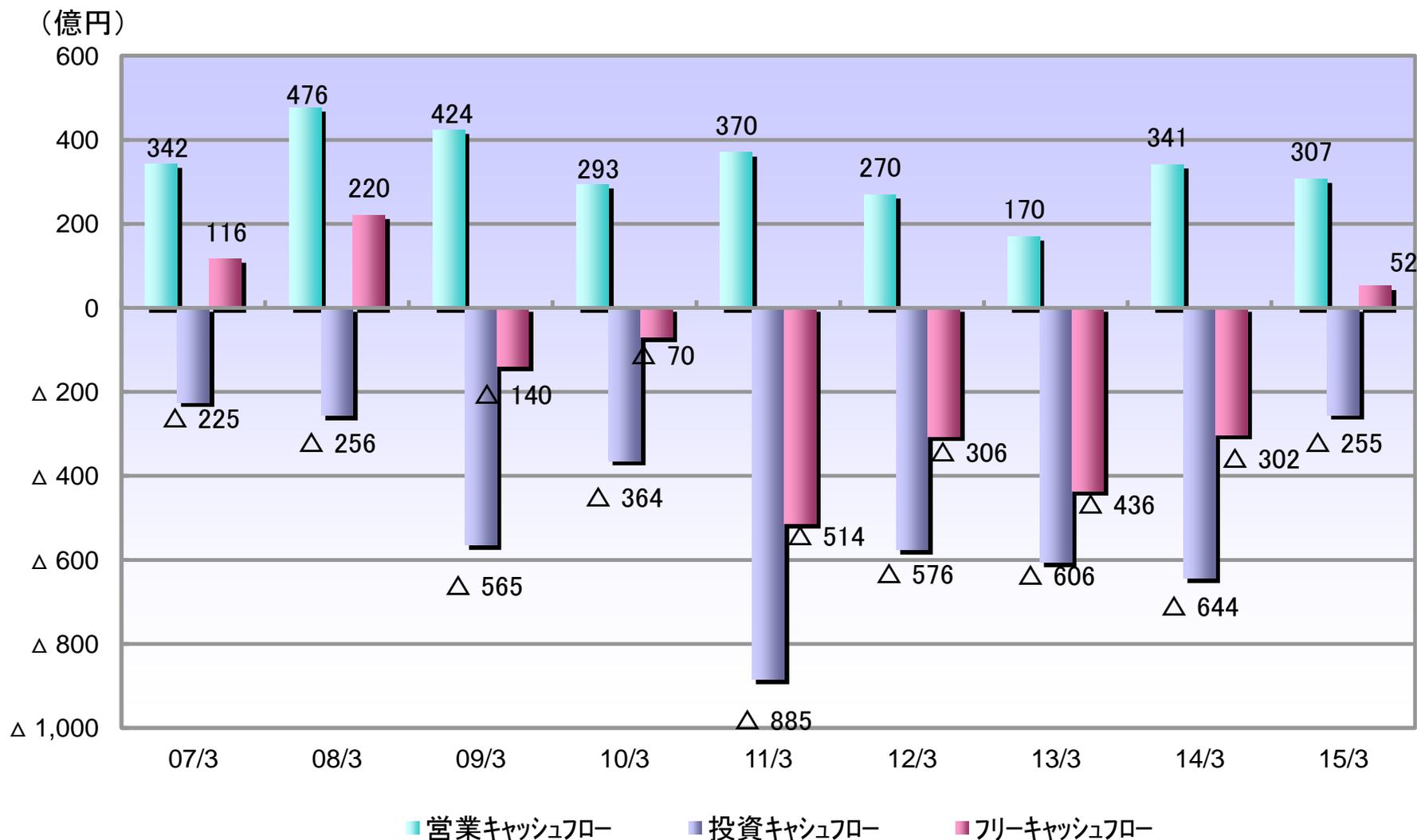
(億円)

短期借入金 長期借入金 社債 D/Eレシオ



# 11. フリー・キャッシュフロー推移

連 結



# 12. 業績予想(上期・下期)

連 結 ( 前 期 比 )

(億円)

	2015年3月期			2016年3月期 予想		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	1,438	1,582	3,020	1,510	1,610	3,120
営業利益	105	89	195	85	125	210
経常利益	82	46	129	60	80	140
当期純損益	△805	151	△653	30	50	80
1株当たり純利益(円)	△231.40	43.55	△187.85	8.62	14.38	23.00
為替(円/\$)	103	117	110	115	115	115
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	70,400	56,500	63,500	46,000	46,000	46,000

# 12. 業績予想(上期・下期)

## セグメント別(前期比)

(億円)

	2015年3月期						2016年3月期 予想					
	上期		下期		通期		上期		下期		通期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化成品	439	24	479	25	919	50	420	20	450	40	870	60
特殊品	241	27	313	14	554	41	310	0	350	10	660	10
セメント	386	22	425	22	812	44	420	30	440	40	860	70
ライフアメニティー	300	25	283	25	584	51	290	25	290	30	580	55
その他	249	26	265	33	514	60	270	20	290	20	560	40
計	1,617	126	1,767	121	3,385	248	1,710	95	1,820	140	3,530	235
セグメント間 消去・ 全社費用	△179	△20	△185	△32	△364	△52	△200	△10	△210	△15	△410	△25
連結決算	1,438	105	1,582	89	3,020	195	1,510	85	1,610	125	3,120	210

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

# 13. 主要グループ会社

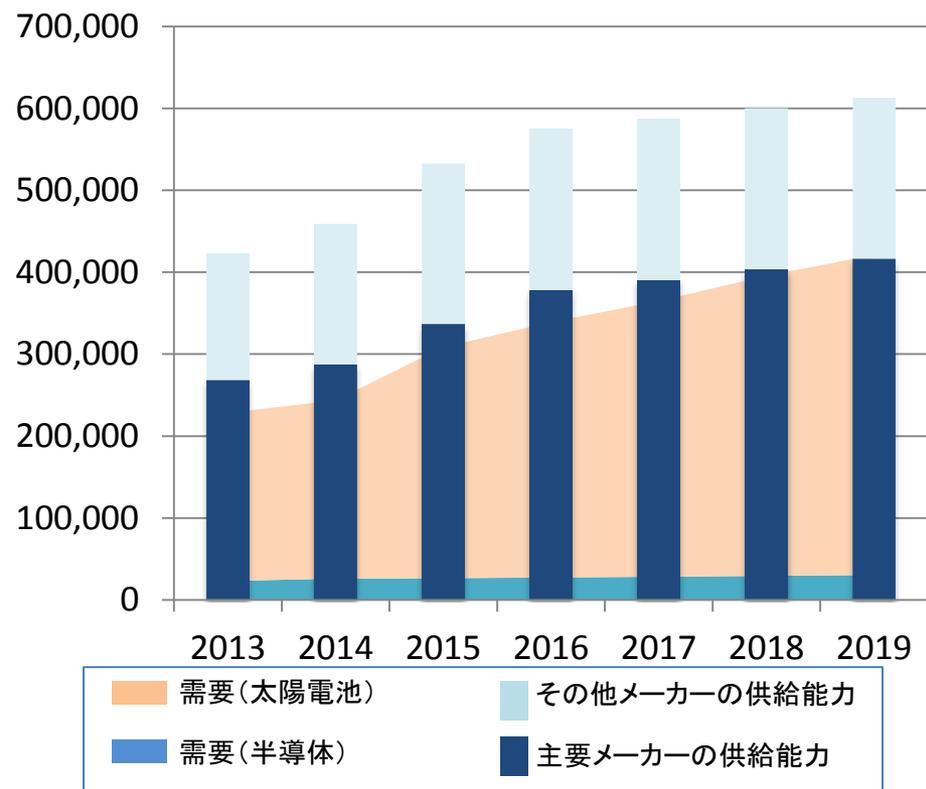
	会社名	事業内容	資本金 (百万円)	出資比率 (%)	売上高(百万円)	
					14年3月期	15年3月期
①	トクヤマ通商(株)	セメント・生コンクリート、各種建設資材の販売	95	100	24,102	22,396
②	新第一塩ビ(株)	塩化ビニル樹脂の製造販売	2,000	71	22,240	21,764
③	サン・トックス(株)	プラスチックフィルムの製造販売	1,600	100	18,088	18,877
④	(株)トクショウ	生コンクリート、各種建設資材の販売	40	100	11,016	11,015
⑤	関西トクヤマ販売(株)	生コンクリート、各種建設資材の販売	80	100	10,810	11,006
⑥	(株)エイアンドティー(12月決算)	臨床診断分析機器、試薬及び関連システムの販売	578	40	9,221	9,569
⑦	(株)エクセルシャノン	プラスチックサッシの製造販売	495	100	7,450	6,031
⑧	徳山化工(浙江)(有)	乾式シリカ、TCS、STCの製造販売	377 百万円	100	4,994	5,763
⑨	フィガロ技研(株)	ガスセンサ素子及び応用製品の製造販売	99	100	4,905	5,453

# 14. 多結晶シリコン市場動向

## 多結晶シリコンの需給予測

供給能力／需要(トン)

\*当社予測



(注1) 主要メーカーは、IHSのTier1メーカー

(注2) 需要は、IHSを基に、当社予測

### 今後の見通し

#### <半導体向け需要>

◆タブレット、スマートフォン向けの需要拡大で年率3-4%程度の増加が見込まれる

#### <太陽電池向け需要>

◆欧州では補助金削減等により太陽電池導入量が大幅減となるものの、中国、日本、米国等で積極的な導入政策による成長が予想され、年率10-15%程度の需要拡大が見込まれる

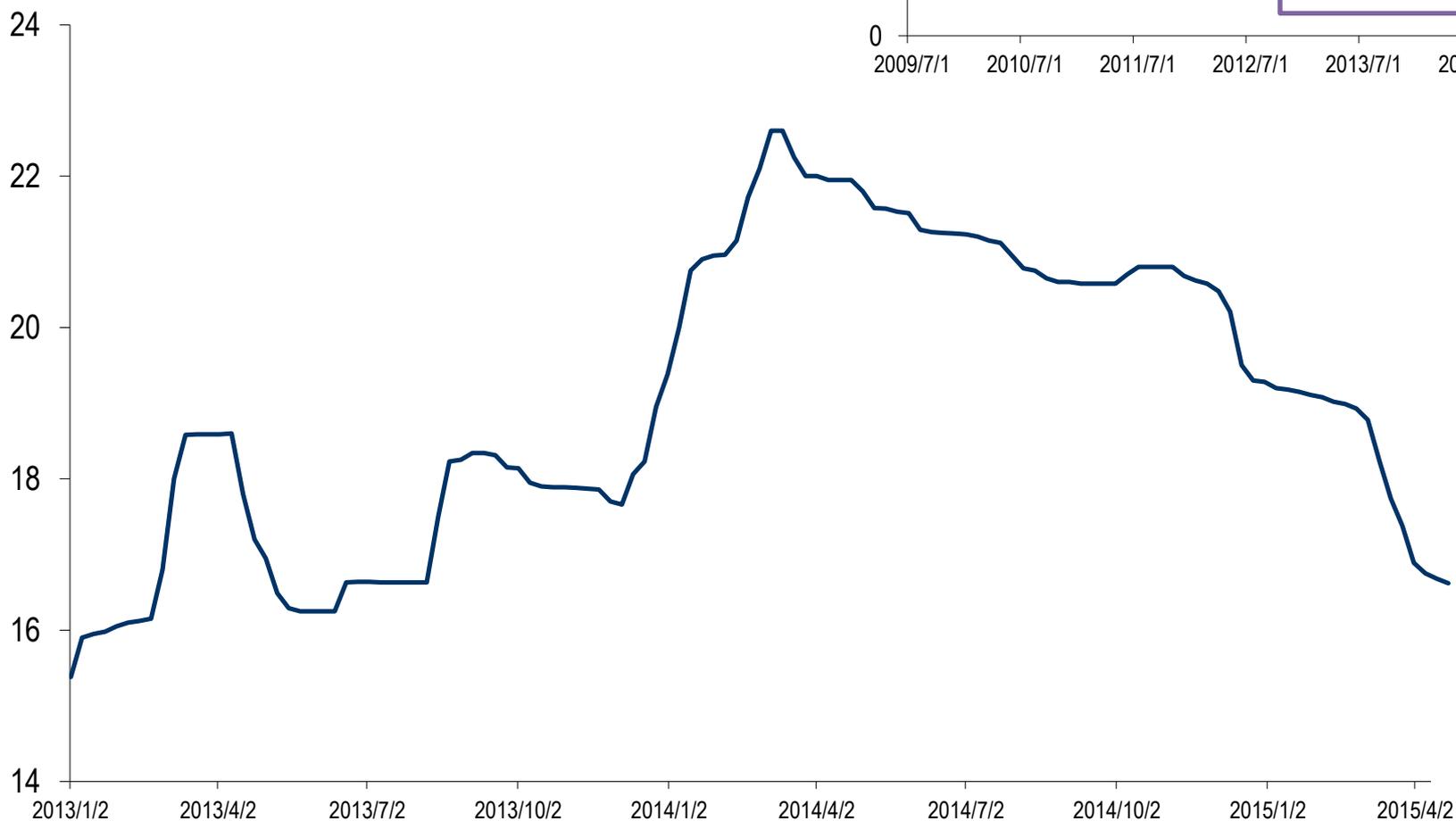
#### <供給サイド>

◆当面供給能力過剰の状況が続く。コスト競争力が生き残りのカギとなる

# 14. 多結晶シリコン市場動向

太陽電池用多結晶シリコンのスポット価格推移

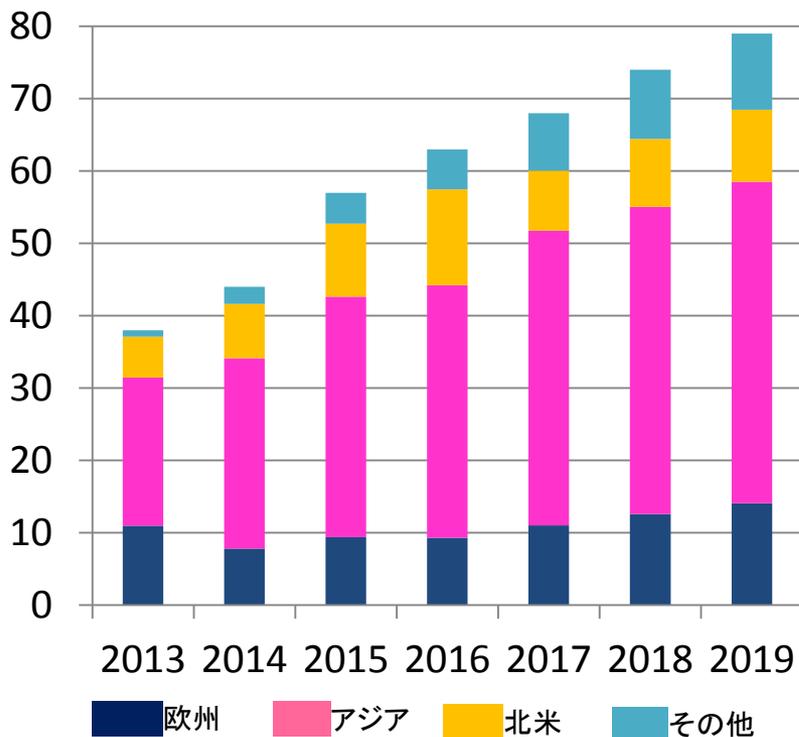
(US\$/KG)



# 15. 太陽電池市場動向

地域別太陽電池導入量予測

単位:GW



(注)IHS Market Tracker (PV Integrated) Q1 2015のデータ等を基に当社予測

## 各国の状況

### <中国>

- ◆太陽光発電産業の健全な成長の為の政策を公表、2017年までの累積導入目標を70GWに設定
- ◆2014年の導入実績は10.6GW
- ◆中国国家能源局は、2015年の太陽エネルギー導入目標を15GWから17.8GWに上方修正

### <日本>

- ◆2012年7月の現行固定価格買取制度の導入以降、太陽光発電の導入量が急増
- ◆2014年の導入実績は8.6GW(ACベース)

### <米国>

- ◆様々な太陽光発電の普及政策が存在し、市場拡大を後押ししている。特に、大規模太陽光発電市場では、州レベルでの政策が市場を牽引
- ◆2014年の米国における導入量は単年で6.2GW、累積で18.3GWに到達

### <欧州>

- ◆政策による支援縮小等の影響により、2014年も太陽光発電市場はやや縮小した。2015年は4年ぶりに需要が回復すると期待され、今後は緩やかな成長トレンドに移行するとみられる。

# 本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

Chemistry with a heart

**TOKUYAMA**

